

日 時 令和3年12月19日（日）午後2時から
場 所 東海村産業・情報プラザ（アイヴィル）多目的ホール

第5回東海村“自分ごと化”会議
～“原発問題”を自分のこととして考える～
議 事 録

第5回会議 出席者

■会議参加者

- ・村民 15名（住民基本台帳から無作為抽出した村民で会議参加を希望した方，男性10名・女性5名）
- ・伊藤 伸氏（一般社団法人 構想日本 総括ディレクター）

■その他，出席者

一般社団法人 構想日本

- ・加藤 秀樹氏（一般社団法人 構想日本 代表）
- ・福嶋 浩彦氏（自分ごと化会議in松江実行委員会 共同代表，中央学院大学教授）
ほか2名

東海村

- ・村長
- ・副村長
- ・村民生活部長
- ・防災原子力安全課長ほか5名

開 会

○司会（山路係長） 定刻となりましたので、ただいまから、「第5回東海村“自分ごと化”会議～“原発問題”を自分のこととして考える～」を開催いたします。

私は、本日、司会を務めさせていただきます、東海村村民生活部防災原子力安全課の山路と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、会場の傍聴者の皆様への注意事項について、当課の菊地より御連絡させていただきます。

○菊地主事 それでは、防災原子力安全課の菊地から、傍聴者の皆様に注意事項を御説明いたします。

お配りしました資料1「東海村“自分ごと化”会議注意事項」を御覧ください。

まず、1つ目として「新型コロナウイルス感染症対策」ですが、マスクの着用、咳エチケット、手洗い、アルコール消毒、会場内の換気等への御協力をお願いいたします。

そのほか、体調が思わしくないときの対応、「いばらきアマビエちゃん」への登録、後日に感染症患者が確認された場合の取り扱いについて記載しておりますので、こちらについても御協力をお願いいたします。

続いて、2つ目、「傍聴席の御利用に際して」ですが、席の御移動は最小限にさせていただき、御発言や会話等は御遠慮ください。

また、傍聴席からの御質問等には応じられませんので、あらかじめ御了承をお願いいたします。

なお、携帯電話の電源等、操作マナーに御配慮をお願いいたします。

加えまして、写真撮影や録画、スマートフォン・ICレコーダー等を使用する録音・録画及びWEB配信等につきましては、報道関係者を除き、一切を禁止させていただきますので、御理解と御協力をお願いいたします。

最後に、アンケート調査でございますが、率直な御意見等をお聞かせいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上です。

第5回“自分ごと化”会議の進め方等の説明、全体協議

○司会 続きまして、次第に従いまして、「第5回“自分ごと化”会議の進め方等の説明、全体協議」に移ってまいりたいと存じます。

ここからの進行につきましては、構想日本総括ディレクターの伊藤様に交代させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤 こんにちは。構想日本の伊藤です。本日もよろしくお願いいたします。

今日は、第5回目、最終回になります。1回目が昨年12月19日、ちょうど1年前が第1回でした。前にも申し上げましたが、構想日本がやるこういう会議は、いつも大体1か月から1か月半に1回ぐらいの頻度でやりますが、今回は、コロナの影響で、2か月ちょっとの頻度になってしまったというところがあります。正直言って、間隔が空いてしまうと、若干間延びするところもあるかなと感じておりますが、ただ、何よりも、あらゆる制約がある中でも、このように最終回まで迎えられたことは、非常に大きいことかなと思っております。

まず、先に今日の流れを御説明したいと思います。

今日は最終回です。前回も申し上げたように、最終的に、この会議参加者の皆さんと一緒に、共有する提案書をつくり上げるという時間になります。

今週の初めぐらいですか、この提案書を皆さんに送付させていただいています。これは、皆さんから4回にわたって書いていただいた「改善提案シート」やそれぞれの議事録などからまとめたものになります。

これをざっと御覧になった方はいらっしゃいますか。

〔該当者挙手〕

○伊藤 何人かいらっしゃいますね。ありがとうございます。

少し時間をとって、もう一度、さっと目を通していただきたいと思います。この後、私から今日の流れを説明した後に、少し時間をとって、目を通していただいた上で、改めて私からこの提案書の紹介をしていきたいと思っております。

まとめ方については、これまでも話をしているように、皆さんに「改善提案シート」に書いていただいたものを、構想日本で取りまとめております。今回、本当に多くの御意見がありましたし、同じようなことをそれぞれの表現で書いていただいているようなところはある程度まとめた上で記載しております。

2回目、3回目、4回目は、どちらかというと、こういう課題があるから、こんなことを改善しなければいけないのだといった取りまとめの仕方をしてきたかと思うのですが、それらをもとにして、今回、提案書という形ですので、読んでいただいたらわかりますが、課題がこうあるという書き方ではなくて、こういうことをしていこうといった書きぶりに変えています。

さらに、その提案を具体的に実現するに当たっては、もちろん、東海村、行政がやらなければいけないこともあるけれども、それ以外に、この“自分ごと化”会議の大きい特徴でもある、では、自分たちで何ができるかなとか、地域で何ができるかなといったことも一緒に記載しておりますので、そこも皆さんに御確認いただきたいと思います。

この提案書に書いてある中身については、今日、できるだけ参加者の皆さんと共有して、皆が一致するような形でおさめたいと思っております。

とはいえ、この提案書についての議論は今日初めてですので、これで修正はほとんどないと言うつもりはありません。皆さんにはもう一回だけ、今日配られているかと思っております。

「意見提出シート」を書いていただきたいと思います。先に、この書き方だけ紹介しておきたいと思います。

今日の資料の中に、こういったA4の1枚紙の横のものが入っているかと思います。書き方の説明を書いています。要は、「提案書案」に書いてあるものについて修正がある場合は、該当する提案番号を書いていただいて、意見を書いていただく。もし新たな提案の内容があるようであれば、提案番号と書いているところに具体的に、こういうことをしたほうがいいのかという提案を御記載いただきたいと思います。もちろん全部埋めてくださいということではありません。読んでいて、この提案番号のこの部分についてはちょっと追加したほうがいいのかとか、このように表現を変えたほうがいいのかとか、これは全体で共有するのはなかなか難しいから、これは一旦削除したほうがいいのかとかといったことを書いていただきたいと思います。穴が全部埋まらなくても全然構いませんので、感じたことを御記入いただきたいと思います。

先にこの後の流れを全部お伝えいたしますが、皆さんに今日、「意見提出シート」を書いてもらって、それをもう一回集約します。その上で、必要に応じて提案書を修正したものを皆さんのところに郵送でお送りして、再度確認をしていただくことになります。その上で意見をいただいて、提案書の完成という運びになっていきます。

こうやって集まって議論するのは今日が最後になりますので、今日は、どちらかというと、この提案書に沿った形で話を進めていきますが、感じたことはぜひその場でもお話しいただきたいと思います。

今日の最後には、全体を通して、5回の“自分ごと化”会議に参加してみて感じたことを一言ずつお話しいただきたいと思っております。

今日の流れについて、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、あそこの時計で2時20分まで少し時間をとりますので、この提案書に一度目を通しての方がいらっしゃるかもしれませんが、もう一回、確認のために読んでみていただきたいと思います。

今日は、6ページから22ページまでがこの提案書の具体的な中身になりますので、そこについて議論していくという形になります。

〔提案書黙読〕

○伊藤 それでは、よろしいでしょうか。あとは、皆さん、目を通してながら、話に参加していただければと思います。

今日のこの後の進め方ですが、提案1についてどうですかという進め方はひとまずせず、ここに書いてあるもののうち、どこでもいいですので、この中で自分が関心を持っている項目で、もうちょっとこうしたほうがいいのかとか、逆に、このように感じるというところ

ろをお話しいただいて、そこから具体的に議論を進めていきたいと思っております。

私から少しだけ、ここに書いてある中身の紹介をしていきたいと思います。

まず、6ページを御覧ください。

ここに提案1から6までの項目が書かれております。整理の仕方がいつも大体一番難しいところでした、今回、皆さんの書いているものを見ている中で、まずは、このような整理の仕方をしています。

1つ目は、原子力や原発に関しての情報共有、情報のギャップを埋めるということを書いています。この間、もっともっと知る必要があるというお話がありましたので、住民もしっかりと情報をとれるようにしていこう、逆に、原電も含めて、行政側はそれをしっかり伝えていくといったところの提案になっています。

2つ目については、より具体的に東海第二原発の安全性の話。安全性強化をまずしなければいけない。さらに、強化をしているプロセスやリスクについて、住民にしっかり説明をしていく必要があるということが書いてあります。

3つ目は、さらに具体的になって、避難ルートや避難計画の整備の話です。第3回目でもかなり中心的に議論したものになります。

4つ目と5つ目は、どちらかというと、まちづくりに関わるところです。

4つ目については、東海村の大きな特徴と皆さんも感じておられたと思いますが、原子力関連の事業所が多いこと、また、原発立地の交付金といった特徴、現状の魅力をどう伝えていくかというところです。

5番目については、さらにその先です。4番目は今の特徴や魅力、5番目については、将来に向けて、仮に交付金が減ることを想定したまちづくりを今から考えていく必要があるのではないかという提案になります。

6番目については、この“自分ごと化”会議もそうかもしれませんが、賛成、反対、どちらでもない人など多様な人が参加して、建設的な議論をする場をつくっていこうという提案。6番目は性質が若干異なるところかなと思っています。

7ページ以降を御覧ください。

最初のリード文のところだけ読み上げていきたいと思います。

1つ目の情報のギャップを埋めるという提案の具体的な中身です。

「会議参加者の中で『原発があることが当たり前』と感じ、原発についての切実感や危機意識が薄れている人が多いことがわかった。原発に関する情報について、何が正しいのかを一人ひとりが正確に判断することはとても難しいが、『正しく恐れる』ために、メディアやネットの情報を鵜呑みにするだけでなく、自分で調べ考えることが重要。行政も差し障りのない情報だけでなく、行政として考えるメリットやデメリットについても発信していくことが必要となる。それによって、行政や事業者と住民との情報のギャップが埋まってくるのではないか」ということを書いております。

この提案を実現するに当たって、では、何をしたらいいのかというのがこの下に書

いてあるものになります。全部読み上げはしません。こんなことが書いてあるという紹介だけになりますが、まず、それぞれ個人個人としては、例えば①番「個人でいろいろな情報に耳を傾けて収集し、周りと共有していく」。これは本当に基礎的なことかもしれません。それから、例えば⑤番、発信される情報をもとに自分なりにメリット・デメリットを考え、原発の是非やエネルギー政策について意見を持っていこうと。関心を持った上で、自分なりの意見をどんどん持っていこうといったこと。例えば、このようなことは自分たちでもやっていけるのではないか。

次に、地域として、疑問点を調べたり、議論する場を、コミュニティセンターを中心に地域で設けてはどうかと。これによって情報のギャップが埋まっていくのではないかと、いうところかと思えます。

では、行政としてどんなことをしたほうがいいのか。ここに3つ書いています。

②番「“自分ごと化” 会議の内容を、広報紙やホームページ等で周知する」。確かこれは、アンケートで何名かの方から、この会議が開かれていること自体、まだなかなか知られていないという御意見があったかなと思います。抽選で当たっていない人にもこれを知ってもらうことが、この情報のギャップを埋めることにつながるのではないかと、いうところかなと思います。

原子力事業者として、改善した点などは正しくわかりやすく伝えていこうということですね。

ここまでの部分は、できれば、今日、15名おられる皆さんの中で共有したいと思っている部分になります。

それ以降、参加者による個別の補強意見もしくは異なる意見はその欄外に記載しております。これは、ほかの提案項目についても全く同じような書き方にしております。

この違いというか、どのように区別をしたかというところについては、複数の方が「改善提案シート」に書かれていたり、こういう議論の中で発言されていたものについてはこの上のほうに載せていて、それ以外、例えば、発言はないけれども、たまたま「改善提案シート」に書いていたといったものについては個別意見のほうに出しているといった整理の仕方になっております。こんな感じで整理しています。

2以降は、最初のリード文だけ読み上げていきたいと思えます。

9ページを御覧ください。

2つ目の提案は、安全性の強化です。あとは、その説明について。

「東海第二発電所は運転開始から40年以上が経過している。事業者は古い設備の刷新や安全性向上対策工事を進めているが、100%の安全というものは存在しない。つまり、安全に終わりはしないことをしっかりと認識しておく必要がある。また、現在行われている安全性向上対策工事の具体的な内容や、それでも残るリスクについてなど、まだ住民に浸透していない。村民の安心・信頼を得るためには、情報を公開し、きめ細かく、丁寧にわかりやすく説明することが重要である」というところが提案の2番目になります。

この下のところは、また後で御覧いただければと思います。

11ページを御覧ください。

3番目は、避難ルートをはじめとした避難計画の整備についてです。

「災害が起きたときに村民が安全に避難できる計画の整備は必要不可欠だ。しかし、『東海村広域避難計画』は未だに“案”のままで、避難ルートの整備や避難方法の周知などに課題が多い。災害はいつ起こるかわからないからこそ、東海第二発電所の再稼働のためではなく、村民と周辺自治体の住民に安心と安全をもたらすために、避難計画を確立することが必要である。また、適切な避難行動を取れるよう、避難訓練をさらに実効的なものにし、安心なまちづくりを進めていく」ということを書いております。

避難計画を具体的に、しっかり形にしていくということ、また、避難訓練をやっているという話がありましたが、それをより実効的なものにしようということがこの下のところに書かれているかなと思います。

提案の4番目、14ページを御覧ください。

原子力事業所が多いという東海村の特徴をしっかりと知っていこうということが書いてあります。

「東海村には、東海第二発電所以外にも最先端の原子力関係の研究施設が多くあり、原子力に係る国からの交付金が、私たちの生活に大きく影響を与えていることなど、東海村は全国的にも大きな特徴を持っている。村で行われている研究の内容や、交付金の具体的な使われ方など、東海村の今をもっと詳しく知ること、村を今まで以上に自分ごとに捉えることができる。また、これらの特徴と向き合うことで、村のさらなる魅力につなげることもできる。私たち住民は、村の特徴、魅力をさらに知る努力をし、行政は村の特徴をしっかりと伝えていく」ということが書かれております。これも、確か3回目のときですか、大きく議論したところかなと思います。

続いて、17ページです。提案の5番です。

先ほど申し上げた将来的な話になります。原発に代わる新たな魅力というところです。

「提案4のように、村の特色、魅力をさらに活かしていくとともに、新たな魅力をつくることも必要である。どの原発も、いずれは廃止される。また、国の財政状況や政策の変更があれば、原発関連の交付金が縮小・廃止になる可能性もある。先を見据えて、原発廃止後の東海村のまちづくりや、交付金に頼らない財政運営などについて、今から考えていく」ということが書かれております。

最後、提案の6番目です。20ページ。

建設的な議論の場を多くつくるところが提案の項目になっています。

「『原発のことは村の中で話しにくい』との意見が多く出た。議論の場があったとしても、原発に賛成の人だけ、もしくは反対の人だけのものがほとんど。それでは、村民の中に分断が起き、しかも結論がなかなか出ない（どのような結論が出されても納得感が生まれない）。その状況を乗り越える必要があるし、そのためには、今回の『“自分ごと化”会

議』のように、世代、性別、所属はもちろん、明確に賛成や反対の意思を持っている人以外の、『考えているが結論が出ない人』『あまり考えたことのない人』など多様な人との議論の場を多く作ることが重要である。多くの住民が納得感を持つための重要な手段ではないだろうか」ということが記載されています。先ほど申し上げたように、こういった場をさらにつくることが、結果的に、皆で原発のこと、東海村のことを考えるきっかけになるだろうというのが6番目の提案の中身になっているかなと思います。

これが6つの提案の概要ということになろうかなと思います。

では、ここからはフリーに、どの提案項目でも構いませんし、また、この提案のこういうところみたいな細かなところでもなくてもいいですので、感じたことを御自由に御発言いただくとお進めしていきたいと思います。

Eさん。

○参加者E 資料はかなりよくできているので、重箱の隅をつつくような発言でしかないとお許しください。

まず、提案1と提案5に関して意見があるのですが、東海村としては、LINE、フェイスブック、ツイッター、広報紙、ホームページ等で情報発信をしているのかなと思うのですが、情報発信を積極的に行っていても、村民が関心を持たないと意味がないのではないかなというところがありますので、情報発信を見るきっかけづくりが必要なのではないかなという感じがします。また、情報発信が一方通行ではなくて、村民の意見も聞けるような双方向の仕組みもできると面白いのではないかなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

○参加者E あと、提案5の話ですが、いいですか。

○伊藤 では、ここで一旦止めましょう。

村として情報を出しているのだけれども、住民はあまり見ていない。双方向のやりとりが必要だということですね。

もしよければ、先に川又さん、行政としては、情報は出しているけれども、見ていないこと、もしくは双方向のコミュニケーションをやっていることが何かありますか。

○川又課長 防災原子力安全課の川又でございます。

村としましては、さっき言ったようなSNSやホームページなどで、情報は一生懸命出しているのですが、検索性の難しさや複雑さといった課題があるところは行政としても認知しているところでございますが、それを見てもらうようなきっかけづくりというところでは、私ども行政のほうでノウハウを持っていないところもあって、悩めるところではあります。

ただ、村民からの意見を受けているという部分では、ホームページなどにアップできるような形であれば、そこで意見をもらうこともできますし、実際に広報紙などを通して、村民提案制度というものをつくってございまして、そういった形で、村民からの意見を頂戴することができる体制はつくっているということでございます。

○伊藤 ありがとうございます。

今、Eさんから提案1のところからお話をいただいたので、1に関連して、少し御意見をいただきたいと思うのですが、情報を出す側は結構出している。でも、受け取る側がなかなかそれを見ようとしなかったら、このギャップは埋まらないのではないかというところの御意見だったかと思うのですけれども、これに関連して、御意見、御質問のある方いらっしゃいますか。

Uさん、どうぞ。

○参加者U 僕もそれはすごく感じていまして、前回、僕が参加させていただいたときに、オンラインで自分の意見を出し合うというのをやらせてもらったのですが、この“自分ごと化”会議をやっている場を見てもらうといった感じにしたほうがいいのかと思います。もちろん、中では色々な意見も出てくると思うので、ログインページをつくって、個人情報のセキュリティの面もちゃんとしっかりして、建設的な議論ができるような場という意識づけをさせるためにも、こういう会議をしているのだということを知ってもらおうというところから出発なのかなと思います。

○伊藤 なるほど。ありがとうございます。

もうお一人、お二人どうでしょうか。

要は、この“自分ごと化”会議をWEB中継するとか、アーカイブで、YouTubeで見られるようにするというのは、最初、役場の方とも結構議論したのです。今まで構想日本でこういうことをやっている中では、実は出していないのです。何回か出したことはあるのですが、見せるということは、結果的には、発言を切り取られる可能性が出てくるところもあったので、今回はとりあえずしなかったのですけれども、ただ、Uさんが今おっしゃったように、ログインをして、見られる人がしっかりとわかるようにしておく。さらにログインしないと見られないといった仕掛けができればいいのではないかということですね。ありがとうございます。

情報のギャップをどう埋めていくか。

Rさん、どうぞ。

○参加者R ネットの中継でやればいいのですが、大体回線が固まってしまっていて見えなくなるのですね。YouTubeでコメントなどを書き込めるようなものがあるのですが、それもコメントだけバーッと先に流れてしまって、画像はそのまま止まって終わりというのがあるので、そういうものをやる場合は、かなり回線の強化をしないと、本当に見ていて何をやっているかわからない。挙げ句の果てに、声だけでどんどん先に進んでいってしまって、つなげるのを頑張っていると、全く関係ないところをやっているというのが、ここのWEBで見ると結構あるので、そこを何とかしてほしいです。

○伊藤 なるほど。やるに当たって、インフラというのですか、ちゃんとつながるようにしておこうということですね。これは、ほかのことも含めて大切なところですね。

提案1、情報のギャップを埋めるというところについて、関連で何か御意見のある方い

らっしゃいますでしょうか。

○さん。

○参加者○ オンラインでやる。閲覧できる。閲覧する人にも見る責任、意見するのであれば責任はあるので、やはりログインページは大事だと思うのですね。

YouTubeなどにアップしてしまうと、ヘイトスピーチではないですが、そこばかりを切り取られて、何かよくないような感じで流されるのは、参加している私たちにとって一番のリスクになってしまうので、よくないことばかり言われてしまうと、この会議に参加してよかったのかというところに戻ってしまうと思うので、やるのであれば、まずセキュリティをしっかりとっていて、私たちの意見の悪いところを切り取るだけではなく、全てをきちんとやっていただければ、別に問題はないと思います。これはお互いの責任問題です。

○伊藤 ありがとうございます。そういうことをしていくことによって、さっき言っていた双方向のやりとりがどんどん出てくるかもしれないというところですね。

Aさん。

○参加者A 提案1の核のところは、情報を整理して共有して、ギャップをなくしましょう。なので、双方向でログインで、というのはすごく大事ですね。

ここの何項目のことということではないのですが、ギャップを埋めるので一番いいのは、やはりお互いを知ることだと思うのです。書き込みをやっているほうが必ずリアクションできるのかとか色々な問題もあるので、それもやりつつ、一方で、ほかのところにも絡んでくると思うのですが、事業者と住民との情報のギャップを埋めるためには、事業者と住民の距離をもっと近づけたほうがいいと思うので、そうなったときには、こういう場でもいいのですけれども、原子力事業者の皆さんに、今度、ここのコミセンでこういうものを開きますとか、そのように率先して場をどんどん設けてもらって、そういうものに自由に参加してくださいといった、双方向の、リアルに会話ができる場所がもっとあったらいいのかなと思いますね。

○伊藤 リアルな場でも、そういう関係を複数つくっていくということですね。

○参加者A ギャップを埋めると考えると、それが一番いいのかなという気がします。

○伊藤 それはどこか忘れたのですが、どこかの提案項目の中に、原子力事業者はもっと地域とコミュニケーションを図っていこうという提案があったのですね。まさにそういうことですね。

○参加者A はい、ギャップを埋めるためには。

○伊藤 ありがとうございます。

また後で戻ってきますので、感じたことがあれば、その時に随時、お話をいただきたいと思います。

では、Eさん、もう一個、提案5番のほうですね。

○参加者E 大前提として、原子力化の転換をすべきだという意見ではないのですが、提

案2のほうで、運転開始から40年以上が経過しているという形になっているのですが、20年の延長が認められているという話を聞いたことがあるので、60年の運転という形になるかなと思うのですが、とはいえ、廃炉ということが先に見えてくると思います。そうすると、東海第三の建設や新しい産業の誘致・育成が非常に大切になってくるのかなと思ってはいるのですが、ただ、東海第三は、私が第2回目か第3回目のときに質問したときに、計画はなしとおっしゃられたと思うので、そうすると残りは、新しい産業の誘致・育成しかなくなってしまうと思うのですね。それに取り組まないでいると、村の財政が先細りになってしまうのはもう目に見えてくるかなということなので、新しい産業の誘致・育成に関して、積極的にやっていただくことが必要なかなということですね。

あと、育成に関してなのですが、これも慎重に行っていくしないと、財政破綻につながってしまう可能性があるのかなと思うので、慎重に進める必要があるかなと思います。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。今言っていたいたところは、17ページ、18ページ、特に18ページの「まちづくり全般に関すること」というところに、皆さんに結構アイデアを出していただいている部分があるのですね。もちろん、これはまだアイデアベースで、では、これをすぐに進めていこうということにはならないと思うのですが、こういったことを少なくとも今から議論していったって、5年後、10年後に何か形になるものを探していこうというところが今のEさんの御意見でもあるかなと思います。

しかも、Eさんが言ったように、財政をしっかりと慎重に見極めながらというのは、18ページの「まちづくり全般に関すること」の③番の「ハコモノは新しく作らず、今あるものを活用したり活用法を見出すための方策を考える」というところにもすごくつながるところかなと思います。

今、Eさんが提案5番の話をされましたので、5番に関するところで御意見のある方いらっしゃるでしょうか。5番の内容は、今後の話ですね。

Hさん、いかがですか。

○参加者H 全体に対して、皆さん、すごく触れられていて、非常にいいなと思ったのですが、新しいものというのは漠然としている感じがしまして、ほかのこともそうですが、実際、案は出したけれども、ちゃんと成立するのかなということが重要になってくるのだろうなと。ここら辺は行政さんに一生懸命頑張っていただかないと、工場とか、原子力以外の研究所は難しいのかなという気がしますね。

すみません。あまりいい案がないのですが。

○伊藤 ほかに。

Dさん。

○参加者D 先ほどEさんがおっしゃったみたいに、今、60年まで、運転の延長が認められていることは一言追記したほうが、事実としては伝わりやすいのかなと思います。

その上で、20年延長したとしても、その次に新しい原子力発電所をつくることになるの

か、もっとさらに延長があるのか、いずれにしても、財政的にせっぱ詰まった時期が来るので、そのために皆で準備していきましょうというのが伝わるので、時期として60年というのはちゃんと書いたほうがいいかなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

今、お二方からお話をいただいたところは、さっきの18ページの「まちづくり全般に関すること」の⑤番が結構近いのかなと。今、具体的に何かやりましょうといって、新しい産業の結論が出るわけではないけれども、ここに書いてあるような廃止措置完了後の対応や交付金がなくなったことへの対応について、役所の中で一回考える組織をつくっていくというところは今の話ともつながるところかなと思います。

提案5に関して、ほかに何か御意見のある方いらっしゃいますか。

Aさん。

○参加者A 5番は新たな魅力ということなのですが、その上で、その上にある4番は特徴や現状の魅力を知ることということで、今の魅力をさらに伸ばすやり方と全く新しい魅力をつくるというのはちょっと方向性が違うと思うのですが、そもそもになって申しわけないのですが、ここの課題の提案設定を見たときに、新たな魅力をつくるよりも、今の魅力を再確認して、強みをさらに伸ばしたほうがいいのではないかなと思いました。

○伊藤 ありがとうございます。そこはある意味で違う意見とも言えないのかもしれないと、僕は今聞いていて思ったのですが、提案4のほうで、まず現状を知る。知った上で、先のことを考えたときに、まさに今ある特徴を使った産業にしていこうというのは全部つながっている話になると思うのですね。もしかしたら、それはちょっと難しいから、全然違うことを考えようよということも出てくるかもしれない。少なくとも、ある意味、4と5はつながっているところがあって、現状を知らないまま先ばかり見たってしょうがないし、現状や特徴をまず知った上で、次のことを考えようというのが今のAさんの御意見ですかね。ありがとうございます。4と5は確かにすごくつながるところがあって、この辺について御意見のある方いらっしゃいますか。4に対してでも構いません。

Lさん、どうぞ。

○参加者L これがいいのか悪いかわからないのですが、交付金がなくなったときの対応についての検討組織をつくるとか書いてあるのですが、実際にどれだけの予算というか、お金を投じて、この東海村を維持していけるかとか、交付金がなくなったら、私たちの税金は幾らになるのかとか、暮らしがどうなるのかとか、サービスとか、建てただけ建てたハコモノの維持とか、そういうもののシミュレーションみたいなものをつくり上げてからでないと、検討も何もできないと思っています。

○伊藤 なくなる、または減ったときの財政的なシミュレーションを今のうちからある程度考えた上で、どうするかをこれから決めていこうと。Lさん、ぜひ「意見提出シート」に書いておいていただければ。ありがとうございます。

ほかに、提案4、5に関連するところで御意見ある方いらっしゃいますか。

I さん、いかがですか。

○参加者 I 全部目を通したのですが、内容としては本当に素晴らしいと思います。ほぼ完璧に網羅されているのかなと。

ただ、私が考えるのは、これを実現することはいかに難しいことなのか。日本は法治国家なので、東海村が幾ら何かをしようとしても、絶対に法律の壁に阻まれてしまうと思うのですね。こういうのは村長や行政の担当の方のほう詳しいと思うのですが、ここに書いてあることは、この場で水を差すようで、本当に申しわけないのですが、机上の空論にしか見えなくて、何か悲しくなってきましたね。

例えば、皆に周知するとか、議論を深めるとかと言うのですが、それができるのだったら投票率だって上がっているし、日本はそんなに衰退しないと思うのですね。一人ひとりのリテラシーを上げるとかというのは難しいですって。でも、それを言っては始まらないよねという話だから、この場の趣旨は十分理解しているのですが、見ていると何かつらくなってきましたね。私も昔はこんなにさめた考え方でなかったのですが、20代から政治や行政に興味を持って、色々見てきましたけれども、結局、変わらないのが日本で、変化を嫌う国民性なのかなと考えると、どうしていいのかわからないですね。

ただ、内容的にはとてもいいと思います。ただ、村長とかにも意見を聞きたいのですが、この中でどれが、今の法律や行政の仕組みの中で実現可能なのかというのを精査してもらったほうが私的にはいいのかなと。そういう意見を聞きたかったですね。理想論や机上の空論ではなくて、本当に実現可能な部分だけ。それをやったら、この場の意味がなくなってしまうので無理なのかもしれませんが、個人的な意見としては、そう思いました。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。I さんは全て御承知で発言されているから。何もしなかったら何も始まらないから、一歩踏み出そうよというのがまさにこの場だと思いますし、では、どう実現できるのかというのは、僕がまとめていた中で思うのは、この中で、法律を変えないとできないことは果たしてあるかなと。やっていく中で、もしかしたら、どこかでぶつかる可能性はありますが、ここに書いてあることを直接やろうとするときに、多分、法律改正をしなければいけないものはないのではないかなと思うのです。それは東海村なのか、もしくは県と働きかけなければいけないかもしれないというものは出てくると思うのですが、ある意味、この中の一歩は絶対実現という意味での一歩を踏み出せるのではないかなということは、少なくとも僕は感じています。さらに言えば、これを実現するために、今日で最終回ですが、終わった後、I さんや皆さんと一緒に、では、何かできないかということを考える場があっていいのかもしれないといったことは幾らでも考えたいなと思いますね。

○参加者 I そうですね。

○伊藤 ありがとうございます。

D さん。

○参加者D 今の話で、ぜひ実現してほしいなと僕が思っているものがありまして、まず1つ目は、避難計画案ではなくて、まずは一旦策定して、その後、訓練などをして実現性を高めていってほしい。

2つ目は、前にどなたかから、東海村の若い人が村外へ出ていって、戻ってこないという意見があったと思うのですが、戻ってきていないのか、本当は戻ってきているかもしれないので、まずはこの辺の実態把握をして、戻ってこないなら戻ってこない理由、戻ってきているのだったら戻ってきている理由を把握するのは何かしらできるのではないかな、それが把握できれば、何かしら対策が打てるのではないかなと思いますので、そこはできそうかなと思っています。

あと、先ほどの財政シミュレーションはすごくいいなと思いましたので、やっていただければと思います。よろしくお願いします。

○伊藤 ありがとうございます。確か、その話はどこかに書いてあったのですね。どのタイミングで出ていって、戻ってきているかどうかということの把握をしようと。今すぐに追いかけるれないのですが、そこはもしかしたら個別意見にしていたかもしれないので、場合によっては、それを共有意見のほうに持っていくことも含めて考えていくというところ。

もう一つ、今、Dさんから出た提案3番のところですね。避難計画は、案を取るという意味で、ぜひとも実現してほしいと。

今日、「意見提出シート」の一番後ろで、「この提案書を、どのように活用して欲しいですか？」ということを聞いています。これも含めてだと思いのですね。今、IさんやDさんからお話しいただいたことで、まさにこれはまとめて終わりではなくて、理想論では駄目なので、どう活用していくかということをぜひ皆さんにもお考えいただきたいなと思っています。

Aさん、どうぞ。

○参加者A たびたびすみません。提案4で、さっきのIさんのシミュレーションはいいなということで、今、将来の予算もそうなのですが、結論は、村議会を見に行きましょうかと。「議会だより」を楽しみにしていて、いつも見ているのですが、ああ、この議員さんはこういうところにこだわって、こういう発言をされているのだなということで、皆さん、結構色々特徴があるのですが、「議会だより」だけではなくて、入ってくるお金が今現状、どのように使われているのかということをしっかり見たいなと。そういうものをうまく仕組み化して、皆で議会を見に行こうとやってみたいな、何かいいなと思います。

○伊藤 なるほど。ちなみにAさん、今まで議会は？

○参加者A いや、「議会だより」だけです。

○伊藤 ちなみに聞きします。この中で、村議会を見に行ったことがある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。

〔該当者挙手〕

○伊藤 お2人ですね。全国的に大体同じような傾向になります。これを機に見に行かれる方も全国的に多くいらっしゃると思いますので、まずは見に行って、どういう議論をされているのか。その中で、きっと財政の話もされているから、そういうことも含めて、どんどんどんどん関心を持っていく。これはきっと1にもつながる。情報のギャップを埋めるということにもつながるところかなと思います。

もうお一人ぐらい。提案4の現状や特徴を知ることと、5の今後のことをしっかり考えていくということについて、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

Lさん。

○参加者L この提案書がどんな形で、どのようなでき上がりになるのかわからないのですが、それをもとにして、原発問題に絞って、中学生や高校生の公開討論会みたいなものを開いていただいて、それをもっと具体的にあれすると、おうちの中でもそういう話をする機会も多いでしょうし、これは私たち大人の意見としてのまとめなので、子どもたちとか、青年たちがどんな形で、それを話し合っていくのかなというのは非常に興味があります。

○伊藤 なるほど。この提案書ができた後に、中学生も議論できる場をつくる。これは提案6につながるかもしれないですね。提案6は、色々な人たちで議論しようという場づくりの話です。

ちなみに、第1回のときに、原発をテーマとした松江市の自分ごと化会議の紹介をしましたが、第2回目は、自然エネルギーをテーマにずっと議論して、先月終わったのですが、そこから、その実行委員会の中に島根大学の学生さんが入っていたこともあり、その学生さんたちが、その提案書を使いながら、自分たちで新たな提案をしていこうと。例えば、入っていなかった提案項目について、自分たちはこのようにやっていこうということで、今、勉強会などを開いてつくられているところですので、そういう動きはほかのところでも少しずつ出ていますし、こういうのは大切ではないかなというところが今の御意見かなと思います。

ほか、いかがでしょうか。

Uさん。

○参加者U 先ほどのIさんの意見は、僕も本当に共感する部分があって、ここで会議をしているものは机上の空論でしかないというのはまさにそのとおりだなと思っております。でも、それだけで終わりにするのではなくて、これから提案4の実現に向けて、結局、誰が責任者なのか、誰が主体でやっていくのかという誰もないのです。最終的に面倒を見るというか、まとめる者がいなくて、結局、ぼやけたままというので、日本の政治を見ても全部そうだと思うのです。正直、僕も今日来るのは本当に面倒くさかったし、自分の生活で精いっぱいですが、自分でこうやって発言する以上、責任があると思ってますし、例えば、今日の会議の部分で、実現4に向けて、それぞれが行うことということで、私が1年間は監視をします、ちゃんとやったかどうか、できていました、できていません

でしたということを最終的に僕が判断しますというのが1年前の12月19日に始まったわけですね。それが今日の12月19日の最終回になったときに来れなかった方もいると思います。その時にオンラインでもいいですし、今、何でもつながれる部分があると思うので、わざわざこの場に来なくても、とにかく1年間見てきたと。これができた、これができなかったという判断をできる責任者をちゃんと立てることが大事だと思いますし、あとは、その部分によって、もっと建設的な議論が生まれてくるのではないかなと思います。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。まず1つは、この提案書は、皆さんが主語になって、完成した段階で、皆さんから村長に提出することになっています。なので、Uさんが先ほどおっしゃった、誰が責任者なのかというのは確かにわかりにくいかもしれません。少なくともこの提案書をつくっている責任の主体は、構想日本の人はお手伝いしますが、皆さんということになりますし、では、これを誰が実現していくのかというのは、当然、ここに書いてあるそれぞれの主体ごとになりますね。

大きいのは、やはり行政、役所ということになります。ただし、この中には「私たち村民」という言葉もあったり、「地域」という言葉もあるように、今、そのつもりでUさんに御発言いただいたのですが、これを書いて、あとは放っておいて、役所がやれよということではなくて、自分たちでもやれることはやるし、これはしっかりとチェックもしていくのだというところの今のUさんの御意見だったと思うのです。

これは全く想定していなかったのですが、さっきAからそういうお話があったので、一つ提案は、例えば、終わってから、先ほどおっしゃっていただいたオンラインというか、LINEグループを使うとか、メーリングリストをつくって、意見交換の場をまず用意しておく。そうすれば、何かがあったときに、例えば、役所の方から何か提案があったり、意見を求められることもあるかもしれないし、このグループの中で、2か月、3か月たって、どうなっているか聞いてみようかという話が出てくるかもしれないなと思います。ほかの自治体でも、終わった後に、いわゆるOB・OG会と言われるものを、LINE上、ネット上でつくっているケースが多くありますので、もしよければ、それをつくりたいなと思います。

ただ、強制にはならないほうがいいと思いますので、やり方をちょっと考えますが、もしつくったときに、参加したいという方がおられれば、今日の「意見提出シート」にでもメールアドレスを記入してください。LINEをやっていない人はいらっしゃいますか。意見交換をしようと思うと、メーリングリストよりはLINEのほうが圧倒的に早いなと思うのですが、もしよかったら、LINE IDもしくはメールアドレスを「意見提出シート」のどこか空いている部分に書いていただいてよろしいですか。強制ではありません。任意制によって、また相談しながら考えたいと思うのです。これはあくまでも自主グループです。仮につくったとしても完全に自主グループです。そのように進めることもありかなと、今のUさんの話を聞いていて思いました。

I さん。

○参加者 I 先ほどの話で、いいことを思いついたので、ちょっと言いたいのですが、さっき政治の責任とかという話になりましたけれども、民主主義である以上は、最終的には国民の責任だと思うのですね。なので、政治も行政も原子力問題も、最終的には国民一人ひとりの責任だと記載したらどうかと思いました。どこに入れるかわかりませんが。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。最終的に国民一人ひとりの責任だということに触れていくのですね。

D さん。

○参加者 D 全体的な話になってきたと思いますので、ちょっと思っているところを言いますが、この提案書を見ると、皆さん、1 ページ目からめくっていったときに、まず 6 ページ目で止まると思うのです。この一覧表を見たときに、いきなり提案がぼんと出されているわけです。そういったときに、それは何の要望に対する提案かというのが何かよくわからないなど。何か改善すべきこと、何か目標があって、それに対して、こういう提案をしますというのならまだわかるのですが、一方で、中をめくっていくと、緑の四角で囲まれているところに目標や課題などが書かれていると思うのですけれども、できれば、どういう東海村にしたいとか、大きな方針とかがあったほうがスーッと入っていけるのではないかなというのが 1 点。

続けていきますが、提案 1 から 6 番の順番なのですけれども、さっき 10 分間ぐらいで見てくださと言われてたときも、多分皆さん、1 から見ていくと思うのです。1 を見たときに、インパクトがやや薄いので、ここで結構やめてしまうのではないかなと思いますので、僕としては、順番を入れかえるのはどうでしょうかと提案したいと思います。

今日時点でのコメントの数なので、今日が終わった後に、コメントの数で入れかわるのかもしれませんが、今の数を単純に数えたときに、3 番の避難計画を整備するコメントが一番多くて、2 番が提案 5 で、提案 4 のところは大体同じぐらい。提案 1 と 6 がその次で、少し少なく、提案 2 が一番少ないのです。そうしたときに、提案 3 をトップに持ってきて、提案 5 を次に持ってくると、皆さん、興味が湧いて読んでくれるのではないかなという気はします。提案 1, 2 だと当たり前というか、それはそうよねというところで、皆さん、その後、読んでくれるかどうかということがありますので、順番を入れかえていくというのはどうでしょうか。

○伊藤 これはどうでしょうかね。今つくっている順番は D さんがおっしゃったとおりで、ストーリーをつくらうとするとこの順番になっていって、そうすると、最初は大体こういう情報面の話。これはどのテーマでやっても大体似たような話になってくるのですね。やはりインパクトが弱いという今の D さんのお話になってくる。それがあるので、コメントの多い順番を中心に、こういう変更をしたらどうだろうかという今の御意見です。これはぜひ御意見をいただければと思います。

Aさん。

○参加者A 提案の順番を入れかえるとか、村長さんや村議員の人が読みやすいようにとか、色々あるかなと思うのですが、この順番を入れかえるのはすごく賛成です。僕も思っていました。

そもそも原発のことでの話なので、どうしても反対、賛成になってしまっているのではないかなというのはあるのですが、ゴールとしては、やはり東海村が大切です。東海村が大切だから、原発をやめようという意見と、いや、東海村が大切だから、財政のこととかも考えたら、やはり原発を動かしたほうがいいのではないかという意見だと思うのです。

東海村が大切だということを枕言葉に置いて、物事を考えて提案していくのであれば、4番、5番、6番あたりのことだったら、先にどんな東海村にしていきたいのかということの話があった上で、今、原発があるよね、これはもう40年、これからの先を考えなくてはいけないよねということに対しての原発の現状を知ろうということで、原発があるのだから、もちろん避難ルートも大切だよねということで、そんな順番でまとめてもいいのかなと。順番の話では、そう思います。

○伊藤 ありがとうございます。ある意味、原案とDさんの今のお考えを少しミックスした形ですね。ストーリーと、ある程度関心を持ちやすい部分を一緒に考えたときに、4、5のまちづくりの話を最初に持ってきた上で、具体的な3番を持っていくというところの今のAさんの御提案ですね。

Hさん。

○参加者H 私も今の意見に賛成なのと、あと、提案3は、私はこの中では物すごく異質に感じるのですね。むしろ具体的に色々なことができるのではないかなと。本当は一番最後に持ってきてもいいかなと思います。読んでみて、避難計画は確かに重要なのですが、色々なことに使えるのではないかなと思ったのです。

提案1で、結局、LINEにしようが、ネットにしようが、皆さんに関心を持ってもらわなくてはどうにもならないかなと思います。何か具体的な、我々にとって鬼気迫るものがあって、そこで議論することで皆さんに関心を持っていただくというのがあるのと、避難計画は、しっかりしたものができれば、案外、いつでも安心といったことにも持っていける。ぜひ持っていていただきたいのですが、そういうことにも使えるのではないかなと思いました。

○伊藤 なるほど。提案3をどう使うかというところですね。この具体的に書いてあることをどういう位置づけにしていくか。

今この瞬間で、順番の結論は出ないかもしれませんが、そこは感じたことを「意見提出シート」に御記入いただきたいと思います。

今出ていた意見の中でいくと、順番が何となく見えてきている部分もあるかなと思いますので、最後はこちらで考えたいと思っております。

Tさん。

○参加者T 3は色々書いてあるということなのですが、逆に、1とかはフワッとしているのが多いなと思って、どこに関連するか難しいのですけれども、例えば、「改善提案シート」をつくったり、色々議論してきたことを周りと共有していくとかあるではないですか。これはどうやるのだと。何もしないと、結局、むちゃくちゃ関心がある人と、ここに参加している人と、よくて傍聴者ぐらいにしか広がらないので、うまく伝えたいのですけれども、どう伝えていくかと。今のところ、場をつくるということに主眼を置かれているのですが、その場をつくるというのは結構難しいというか、限りがあるので、どう伝えるか。難しいのはわかるのですが、フワッとしたことしか書いていないので、そのあたりにも触れたほうがいいのではないかなとちょっと思いました。

○伊藤 なるほど。Tさんが家族や友達にこういう今日の話とかを伝えたい。しかも1回ではなくて、今後ある程度継続して、要は、関心を持ってもらうために伝えていきたいと思ったときに何をやりますかね。

○参加者T 正直なところ、私は解を持っていないから聞いているようなところがあるのです。すみません。でも、せっかくやった答えみたいなもの、ヒントみたいなもの、例えばモデルケースが欲しいなとちょっと思いました。見ていて、ふと気づいたのですが、それこそ自分ごとかなと思ったので。

○伊藤 ありがとうございます。

これはぜひ御意見をいただきたいと思うのですが、ほかの市町村で、こういう会議が終わった後に実際にやっている事例でいくと、例えば、1枚紙で提案書の概要をつくってほしいということになって、それをもとにして、その方は20代の方だったのですが、親や大学のクラスの人たちに説明をする機会をつくったというケースがあります。その時は子育てかなんかがテーマだったと思うのですが、それによって、では、そういうことに皆で関心を持っていこうとなったというケースがあります。

あと、では、行政は何をするかとなったとき、どうしても、いや、ホームページでやっているのですよね、SNSをやっているのですよねとなってしまうのですが、それは全然アプローチされていないということが、今日もそうですけれども、わかっているのです、そういうアプローチの仕方について、行政側で勉強会を開くみたいなことを今までやってきたケースはあります。ただ、成果が出ているかどうかについてはまだわからないのですが。

Aさん。

○参加者A 話を色々伺いして思ったのですが、例えば、マーケティングの会社などが一斉にメールを送りますと、メールが携帯に届いているにもかかわらず、開封しないのがほとんどだという中で、関心を持ってもらうということを考えるのは難しいなと。

今、ふと思ったのは、東海村が大切ですよという、さっきお話ししたようなことが前提なのですが、村内の小中学生全員に、どんな東海村にしたいかというのを書いてもらう。子どもたちに、どんな村に住んでいきたいのかということを書いてもらったものをまとめる。まとめ方は色々あると思うのですが、その中で子どもたちが、こういう村に住みたいと言

っているのだということに対して、大人がどのようにやってアプローチしていけばいいのかということで、そういうことを念頭に置いた告知をすると、集まりとか、参加塾とか、何かわからないのですが、関心と呼ぶという意味では、効果があるのではないかなと思いました。

○伊藤 なるほど。子どもが参加すると保護者がついてくるというパターンですか。

○参加者A 参加するというか、夢を書いてもらうというか、僕たち、私たちはこういうところに住んでいきたい、こういうところにいたいみたいなことなのですが。

○伊藤 なるほど。ありがとうございます。

Pさん、いかがですか。では、具体的に情報のギャップを埋めよう、共有しようというときに、何をすれば、Pさんの周りの人たちはこういうことに関心を持てるか。もちろん自分がということもあるし、役場がということもあるかもしれませんが、原子力事業所はということかもしれない。何か御意見ありますか。

○参加者P ごめんなさい。提案自体ができないのですが、もともと私がここに参加しようと思ったのは、関心はもちろんあったのですが、今まで私自身が、例えば村の情報誌を積極的に見るといったことがなかったので、何か自分が変われるきっかけがあればいいかなと思ったのと、軽い気持ちもあって、ここに参加したので、自分で情報をどう積極的に収集していくかというのは、まだ私自身が見えていない問題で、これは本当に自分の問題なのですが、自分がどう積極的に関わっていくかというのを今すごく思い知らされているというところであれですが、すごく消極的に、ここ東海村にただ暮らしていたのだなと今すごく思っています。答えになっていなくて、すみません。

○伊藤 ありがとうございます。

この後、休憩をとろうと思うのですが、今のPさんのお話で、ここから完全に僕の個人的な意見になるのですが、意識が高くないと、この場に参加してはいけないわけでは当然なくて、たまたま抽選で当たった方の参加動機は、全然違ったりすると思うのですね。例えば、自治会の役員をずっとやっていて、何かしなければいけないと思っている人が、たまたま抽選で当たって参加されているかもしれないですし、全然何の関わりもなかった方が当たって来ているかもしれない。ただ、少なくとも、こういう場に参加されたときに、今までよりはちょっと意識が上がって、何かしようかなと思っている方が、今まで、こういう場を何回もやってきた中で多く出ています。その時に、もともと意識が高い方は、もしかしたら、では、議会に物を言っていこう、役場の審議会に出ようと思われる。その行動が変化する方もいるかもしれないですし、逆に、もともと全く何もやっていなかった方が広報紙を見るようになったということでも、十分、一歩踏み出していると思うのですね。何か踏み出した後、全員同じでなければいけないわけではなくて、それぞれの立場の中で、何か関心を持って一歩踏み出せばいいのではないかなと。これは僕が個人的に感じているところなので、だから何かという話ではないのですが、そういうことかなと思っています。

ここでちょっと休憩をとりたいと思うのですが、前半の振り返りをしていきたいと思います。

この提案書についてフリーにお話を聞いていた中で、結果的に提案1が結構多かったですね。

提案1の情報のギャップを埋めるというところについては、村として情報を出しているのだけでも、村民は見えていない。これは両面の問題ですね。いかにわかりやすく、皆が見たいと思える情報を出せるかということにもなるし、住民は見ようとする努力が必要ではないか。そのためには双方向のやりとりが必要。例えば“自分ごと化”会議を見せていく。ただし、そこはしっかりとセキュリティの観点とか、参加している方が、それによって不利益をこうむらないようにすることを前提とした上で、見せていくことによって、ああ、東海村はこうなっているのだなということを知っていくことにもつながるのではないかな。

もう一つ、オンラインの活用ということもあるけれども、やはりリアルな場を多くつくることも必要ではないか。特に事業者と住民のギャップを埋めることにつながるのではないかな。

情報共有となると、何となく抽象論になってしまいがちなので、具体論を何か書きたいなど。例えば、村内の小中学生に、どんな村にしたいかということを書いてもらった上で、そこから大人が改善策を考えていくみたいな具体論が出てくると、このギャップはより実効性が高まるのではないかなというところがありました。

提案の3番、避難計画の話はとても具体論として書かれている。ぜひ実現してほしいというところ。そのためには、では、何をするのかということも考えていく。これは全体に関わりますが、どう実現していくのかということに関わっていくだろうというところがありました。

4と5はつながっています。4の延長線上に5があるのではないかな。提案4に書かれているのは、東海村の今の特徴は、原子力関係施設が多いということ。原発があるということだけではなくて、原子力関連施設が多い。11でしたかね。その延長線上に、5の今後のことを考えていくことも必要ではないかなというところ。

もう一つ、交付金の話も、4と5、両方書かれています。今、交付金をもらえているというのが特徴になっている。ただし、今後、未来永劫もらえるという保証はないからこそ、まずは、交付金がなくなるとか減った場合の財政的なシミュレーションをしておくことが必要ではないかな。その上で、今の4の延長線上の特徴を活かしていくのか、新しい産業の誘致・育成に力を入れるのかといったことを検討する組織をつくっておくことが必要ではないかなというのが今日のお話だったかなと思います。

今日、この提案の段階以降の結論が出るわけではなくて、まず、今の現状を知る、特徴を知ることと、将来的なことを今から考えておくというのが4と5になっている。

では、それはどういう場で考えるのかというのが6番になっていって、“自分ごと化”

会議のような多様な人たちが集まる場を色々なところにつくっていくことによって、4や5のことをさらに深掘りしていく。これは無作為抽出という手法で集まった人だけではなくても、色々なことで議論していくことができるのではないかな。

あわせて、提案書をもとにして、中学生が公開討論会をするような場をつくっていくと、より広がっていくのではないかなというところの御意見もありました。

あと、全体を通して、机上の空論にならないように工夫しよう。Iさんが寂しい気持ちにならないようにしたいと思うのですが、どう実現するかということは行政も考えなければいけないけれども、今日参加している皆さんとも一緒に考えていきたい。

その中で、最終的には国民一人ひとりの責任だということをどこかで触れていけないかなというところ。

あと、この提案書の見せ方の世界の部分で、急に提案が出てくると、これは何に対しての提案かというのがわかりにくいので、大きい方針をどこかに書いておくことはできないかな。1ページ目というか、2ページというか、これは書いていないのですが、「はじめに」という文章を、皆さんから色々な感想をいただいたものをもとにしてつくった上で、また皆さんに見ていただくことになっていますので、そういうところに書いておくこともできるかなと思っております。

あと、提案の順番ですね。ストーリーを考えると、関心を持ってもらう、特に読んでもらうためにどうしたらいいかという観点で考えたときに、提案の順番は少し変更したほうがいいのではないかなというところがありました。これについては、ぜひ皆さんにも「意見提出シート」の中でも御意見をいただければと思います。

では、あちらの時計で35分まで休憩をとりたいと思います。

後半も引き続き、提案について御意見をいただきたいと思います。まだ発言されていない方に当てていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〔休 憩〕

○伊藤 それでは、再開したいと思います。

どこの提案番号、提案項目についてでも構いませんので、引き続き、感じたことを話していただきたいと思います。

発言していない方にいききたいと思います。

では、Fさんからいきましょうか。

○参加者F 私は、3番の避難ルート、避難計画が一番関心があるところで、前回、前々回、不参加になってしまったもので、その間に詳しいお話があったのかもしれないのですが、これがいまだに案の状態というのは、私的には衝撃的だったのですね。3.11から大分たっていますし、ここに参加して、こういう話に参加しなかったならば、私は、もう決まっていて、行政の連絡をもらったならば、安全に避難できることになっているだろうと

思っていたもので、これを本当に最優先に決めていっていただきたいなというのを一番思っています。

○伊藤 ありがとうございます。これは確か3回目だったですかね、案とはいえ、結構つくり込まれていて、冊子にもなっているし、今この瞬間に、仮に何か災害が起きたときには、その案に基づいた行動をすることになっているのだけれども、では、何で案なのかというと、その時の答えの中でいくと、今、避難訓練を毎年やったりすることで、その計画をより実効性のあるものにしていきたいというお答えがあったかなと思います。提案書の中に書かれている意見は、今のうちから案は取って、何かあったときに、随時、その計画を見直していけばいいのではないかというのが、皆さんの御意見として書かれているかなと思います。

○参加者F 避難訓練も何回かやったというのをその時見たのですが、私はわからなかったもので、わかっていれば参加したかったです。なので、1番目の情報の共有みたいなのところも周知させられるように、私みたいな感じの主婦などにも、情報が漏れなくわかるようにしていただきたいと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

川又さん、避難訓練は今年と去年が中止だったのですたっけ？

○川又課長 防災原子力安全課の川又でございます。

昨年度につきましては、コロナの関係もございまして、中止とさせていただいたところですが、今年度については、年度で考えれば残り3か月ぐらいですけれども、できるような状況であれば、やっていきたいなと思っております。

ただ、これも、コロナの影響とか、これから決めていかなければならない部分とか、その辺にどのくらいの時間がかかるかといったところなのですが、今の、訓練を3回ぐらいやっているけれども、わからなかったというところに関して補足させていただきますと、過去3回とも、自治会と、東海村に30ある自主防災組織から参加者を募ったというのが一つ、もう一つは、公募という形で、自治会などに入っていない方、あるいは、その枠外の中で入りたい方ということで、応募を受け付けたところでございます。

多いときで大体250人から300人ぐらいの参加というところだったのですが、それも提案1のあれと同じでして、こちらは一生懸命情報を出していたのですけれども、残念ながら届いていなかったということで、今、御提案の話を聞いて、またちょっと工夫しなければならないのかなと思ったところでございます。

○伊藤 今まで避難訓練は、自治会、自主防災組織を通じてだったけれども、少なくともこの後については、直接参加したいということも可能になるということですかね。

○川又課長 公募という形で、随時、申し込みを受け付けていまして、マスコミさんにもお願いして、事前に新聞などに載せていただいたりしていたのですが、残念ながら、その情報は届いていなかったということで、こちらとしては、参加できるチャンスは用意していたつもりだったのですけれども、そういう機会が十分に得られなかったというところで、

何かやるときには、またちょっと考えなくてはならないのかと思っております。

あと、今回、“自分ごと化”会議に参加された方については、御説明したとおり、別途、御案内を申し上げて、参加を受け付けたいと思っておりますので、参考までに。

○伊藤 Lさん、どうぞ。

○参加者L 防災訓練の日を決めて公募するのではなくて、例として、防災訓練を希望する人たちのリストみたいなものを村でつくっていただいて、防災訓練があるときには個別にお知らせするとか、逆方向の形もちょっと考えておいたらいかがでしょうか。

○伊藤 なるほど。日程の前に、それに関心を持っている人たちを募集して、決まった段階で案内すると。

○参加者L それとか、あと、防災無線は使えないのですか。

○川又課長 今の御提案については、ひとつ検討ということで預からせていただきますが、防災無線を使って、そういう応募をお知らせすることは可能だと思っております。東海村の場合には、通常から、定時放送ということで、朝・昼・晩に行政情報をお知らせしているところがございますので、そちらの中で、防災訓練についての御案内などもできるものと思っております。

なお、この定時放送については、その時にたまたま村内にいる人しか聞こえないような仕組みになってしまいますが、役場全体の共通の取り組みとして、防災無線で流した情報はホームページに載せる、また、SNSにも同時に流すという取り決めをして、今、流しているところがございますので、一方通行かもしれませんが、情報は出していけるのかなと思っております。

以上でございます。

○伊藤 Vさん。

○参加者V 僕は、今日の前半のものを聞いて、2つほど思っていたことがあって、1つは、提案4と5のことなのですが、最近、CMなどで、トヨタが「ウーブン・シティ」というものをつくってやりますと。よくよく聞いていると、富士吉田市の場所ということで、地域とともにもう一度歩きたいと。もともとあそこに工場があったらしいのですが、そこを全部取り壊して、自動化運転や新しい技術の開発をやると言っています。

今朝新聞を見たら、日立に2つぐらい工場ができると書いてあって、今日、話を聞いていて、それをちょっと思い出してきたのですが、50年ぐらい前、東海村に原子力を誘致しようとなったときに、きっと、時代は違えども同じような議論をして、頑張りましょうと。だから、結論から言うと、検討委員会みたいなものをつくるという話があったので、そういうことをやっていく。世の中の技術や必要とされるニーズなどは時代の流れによって変わってきて、当時、恐らく原子力は、未来永劫とは言わないけれども、これでやっていくのだと。でも、時代が変わって、世の中が変わって、今、原子力はどうするかという時代になってしまっていて、では、企業とコラボして工場をつくるのがいいのか、トヨタみたいに新しい技術になるのか、それとも、今日は「原発」という単語が出ていますが、原発がな

くなったって、JAEAがあつたりというところもあるので、その延長でいくのかというところは、検討委員会みたいなものをつくって、5年先、10年先を見据えたことをやっていって物事を決めていかないと、なかなか「ウーブン・シティ」みたいにならないのかなとちょっと思ったというのが一つ。

あと、提案の6番でしたか、議論の場をつくるということで、さっき意識が高いと。今日、私も含めて、色々な意識の人がいると思うのですが、村の広報紙で、今日、勉強会をやるのでとか、住民説明会をやるのでといったら、多分、意識の高い人しか行かないし、僕も、それだったら、申しわけないけれども、自分でこの会議に応募することはなかったと思います。多分、興味がない人はあまりいないと思うのですね。たまたま当たって、今、時間もとれそうだから行ってみようかなとか、当たって、興味があるのだけれども、今、子育てとかで忙しいから、今、日曜日、1日空けろと言われても空けられないので、今回は来られなかったという方もいるかもしれないですし、ホームページに出していますとか、ここに書いてあるけれども、村の公民館などに“自分ごと化”会議の報告書を置いていますといっても、取りに行く人しか取りに行かないので、村がやるのか、それとも、また2回、3回と、構想日本さんと一緒にやっていくのかわからないけれども、ちょっとしたきっかけを与えるような情報の発信の仕方というか、ホームページに出しています、報告書をここに置いていますではなくて、「一緒にやりませんか」みたいな問いかけをすると、意外と、私みたいな人でも「では、ちょっと行ってみるか」となるかもしれないから、時間を置いて、それを繰り返しやることで、今、子育てで忙しいけれども、落ち着いたら行ってみようかなとかになって、それでどんどん裾野が広がると、結果的に村全体として広がっていった、いい方向に行くのではないかなと思っています。

○伊藤 今の後半の話は、一歩踏み出すきっかけをつくる。それがあって、まさにVさんに参加していただいたみたいなことで、「来てください」だったら、きっと、もともと意識の高い方ばかりになってしまう。そのきっかけをつくれるのは行政なので、こういった会議の場を繰り返しやっていくことが必要ではないかというところ。

前半のほうは、先ほどトヨタの事例もありましたが、そういうことを考えるに当たって、これはAさんの話に戻ってくるかもしれませんが、今の東海村の特徴は何かと。Vさんから話があつた、原子力の関連施設が多い。仮に原発がなくなっても、JAEAの研究施設を持っていて、これは提案書に書かれていますが、例えば、廃炉の研究を最先端でやりますといった特色をつくることもできるのではないかというところ、今ある関連施設をさらに活用することを検討する組織というのか、委員会というのか、今のVさんのお話では、官民一緒ということになるかと思いますが、つくっていく必要があるのではないかというところだったかなと思います。

Qさん、どうぞ。

○参加者Q お疲れさまです。

提案1のほうですが、私の個人的な意見だと、必要な情報がホームページにあればいい

のかな、調べたいときに見られればいいのかなと思っています。少しでも興味を持った方が増えればいいのですが、きっかけがないとなかなか難しいのかなと。今回のコロナはまさしくいい例で、最初のころ、全然身近に感じていなくて、いざ東海村から感染者が出たという話だと、皆見に行きますよね。そういった形で、しっかりアナウンスだけしておいて、ここにこういうのが置いてありますと。最近、広報を見ていると、しっかりアナウンスできていますし、さっきの防災無線を聞いていても、村から色々な催しの案内をしているので、もうこれでいいのかなと。あと、少しでも興味を持ってくればいいのか、その入り口だけしっかりしていればいいのかと思っています。機会があれば、それにこしたことはないのですが、身近に感じることでないと、なかなか感じないのかなという部分があります。

あと、提案3の避難の話ですが、こちらを見ていて、原因は何？ みたいな話になって、要は、原発事故で避難するのか、それとも地震ですか、それとも、今言えるところは、津波が来るという前提で避難計画を立てるとか、避難計画の大前提は一体何なのかというのがちょっと見えないのですね。確かに地震だと思いますが、原発事故絡みなのか、それとも大きな地震が来たときなのか、あと、避難する場所も1か所ではなくて、分散しておかなければいけないのかなと。最近、大きな地震がありますね。全国どこで起きてもおかしくないところなので、地震が起きて、この場所から避難するときに、避難先のほうがさらに大きな被害を受けていたらどうするのかといったところも今後検討していただければと思います。

それと、新しい事業なのですが、こちらのほうは、先ほどお話が出ていました東海村の特徴、原子力を今後も活かしていくというのであれば、大きな原子炉をつくるのは恐らく無理かなと思いますので、小型モジュールの話が最近ちらほら出始めましたので、その誘致とか、あとは、2、3日前の新聞で、ひたちなが高レベルの地下に埋めるものの住民説明会みたいなものを行ったみたいなのです。ちょっとうろ覚えなのですが、そういうのも村でどうですかという、また色々な意見が出てくるのかなと思いますので、そういうのも、情報発信という観点からやっていただければいいのかと思っています。

それと、私自身は、この会議は村長に提言する場だと思っていますので、結果、どうのこうのと求めるつもりはなくて、今ここに参加している人たちはこんなことを考えていますよ、あとは行政のほうでしっかりお願いしますという場でいいのかなと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。提案3の話、今、Qさんからおっしゃっていただいたところで、確認までですが、3回目のときに議論していた広域避難計画については、発生は、地震、津波、色々あるかもしれないけれども、今の東海第二原発に何かがあったときに、避難するためにどうしたらいいかということを想定した計画で、原発を持っていないほかの自治体は、普通に防災計画、避難計画を持っていると思うのですが、そことの違いはあるのかどうか。

○川又課長 防災原子力安全課の川又でございます。

提案3に書いてある広域避難計画につきましては、まさしく原子力災害そのものに備えるためということを目的としたものでございまして、ここで言う広域避難計画は、東海第二発電所を対象としております。東海第二発電所が、例えば、地震や津波などを受けて、被害が拡大したという、いわゆる複合災害を想定したものではなくて、事業所で何らかのトラブルが起きて、その対応が追いつかなくてというか、収束ができなくて、拡大していくというケースをまず想定している。

東海第二の場合だと、その時も御説明しましたが、防護対策区域として、半径30キロまでの市町村が指定されておまして、その中で、県を含めた15自治体で広域避難計画が必要になっている。そこにかからないところについては、いわゆる災害対策基本法に基づきまして地域防災計画がつくられていて、そちらは主に自然災害、また、例えばコンビナートなどがあれば、そういったところの事故災害、大雪が降るところでしたら雪害対策など、それぞれの自治体で起こり得る災害を想定した計画ができていう流れになっております。

ちなみに、東海村の場合には、主な災害として、地震、風水害、原子力災害を取り上げているといったところでございます。

○伊藤 ありがとうございます。広域避難計画は、原子力災害に特化したものだということですね。

Bさん。

○参加者B 中身が一番少ないのが2番で、今、東海村さんが発信されているLINEや「こちら東海村」など、周りでも見ている人が結構増えているように感じていまして、僕はいいと思うのですが、原子力関係の情報に関しては、ある程度事業者任せにしている部分があって、東海村として、もう少し深掘りした内容を発信したほうがいいのではないかなと思っているのですね。先ほどおっしゃられた小型の原子炉に関しても、率先して最初に原子炉をつくったところでもあるのだし、新しいものを取り入れて、だから安全というのがあってもいいのではないかなと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。安全性に限らずだと思いますが、原発に関する情報を事業者任せにしている雰囲気があるのではないかと、この責任の主体はどこかと考えたら、原電だということもあってかなと思うのですが、行政のほうで考えると、ここはどうでしょうね。

○川又課長 原子力に関して、もうちょっと情報発信をというところで行きますと、事業所さんがやっているところを村が選択的に選んで、それに関して、直接的に情報を流すのはなかなか難しい部分があるのかなと。例えば、流すまでの協議であっても、そこは慎重にやらなければならないのかなと思っています。不可能ではないと思いますが、ただ、やり方の工夫が必要ですし、慎重な検討が必要なのかなと思っています。

SMRが先ほど出ました。小型原子炉は確かに今、報道などで取り上げられておりますが、例えば、東海村として、あれに関して流せる情報は、正直、技術的なところは、今、私どもは文献などから知る限りのものしかございませんし、そういったものについては、どちらかという、私の勝手な考えですが、マスコミさんが取り上げていく情報を参考にさせていただくのが一番いいのかなと思います。

○伊藤 原子力事業所と村では、少なくとも定期的に情報交換の場はあると見てよろしいですかね。それは定期連絡会みたいなものというよりは、都度、都度の感じですか。

○川又課長 お答えします。

事業所さんとの情報交換については、本当に頻繁にやらせていただいております、村内には11原子力事業所がございます。それは、原子力安全協定という、茨城県が中心となって結んだ協定がございます、それに書いてある事項について協議をしたり、情報提供をいただいたりというところが中心になっておりまして、そういう意味では情報交換をやっておりますが、ただ、先ほどの村から出す情報としまして、どうしても多くなってしまうのは、トラブルがありましたといった情報で、これまでも、村から明るいニュースを流したことはあまりなくて、どちらかという、そのようなものが中心になってしまっているというのが今の現状でございます。

以上でございます。

○伊藤 ありがとうございます。Bさん、いいですかね。

○参加者B はい。

○伊藤 これで一応一巡したところなのですが、今、一応全ての提案について、皆さんから御意見を聞いています。さっき思いついたということが出てくるかもしれませんので、今度、提案1から順番に、もう一回確認をしていただきたいと思います。いいですか。もちろん、「意見提出シート」に書いていただいてもいいのですが、できれば書いていることを発言していただくほうがいいかなと思いますので。

では、提案1について、今までは、このギャップを埋めるための具体論を何か出せないかなという話であったり、具体案として、“自分ごと化”会議を見せていくという話もありました。ただ、情報としては、ホームページにそれなりに出ているところがあるので、あとは、見てもらう人をどう増やしていくかというところの御意見もあったかなと思います。

提案1について、御意見のある方。

Iさん。

○参加者I 提案1は、先ほど話があった、興味・関心を持ってもらうというところですね。そこは本当に難しいなと思っていて、実際に今日も、“自分ごと化”会議に今日も行って来るよ」と妻に言ったら、「えーっ、また？」みたいなことで、全く興味がないのですね。「何時に帰ってくるの？」みたいな話になって、私個人としては、今日あったことなどを妻に話したいのですが、興味は全くないですね。それは、うちの夫婦の関係に問題

があるのかもしれないですが。

そこで、では、どうするかといったら、興味・関心がない人でもある程度乗っかりたくなるように、例えば、これは半分冗談ですが、ちょっとバズらせるとかをやらないと、正攻法では無理だと思うのですね。行政も原子力事業者も、今の時代、SNSとか、正攻法の情報発信をやっていると思います。あとはメディアに取り上げてもらうとかしかないのですが、メディアに取り上げてもらうには、バズらせるか、炎上させるか、その辺をやらないと無理かなと。

思ったのは、例えば、村長が何か一発芸をはやらせて、小学生がまねするようなものをするとか、動画で、札束を持って、「原発マネー、イエーッ！」とやるとかやれば全国的にすごくバズって、メディアも食いつくと思うのですね。そこはクビにならない範囲内で、防災原子力安全課のほうでしっかり議論してもらってやれば、確実に「ああ、こういう話題があったよね」となると思うのですね。ただ、実際にできるかどうかといったら、なかなか難しいです。正攻法ではちょっと難しいのですね。

以上です。

○伊藤 このグループの中でやってみましょうか（笑）。

ほかに、提案1，どうですか。

川又さん、どうぞ。

○川又課長 割り込んでしまって、すみません。

バズらせるという意味では、実は行政もこれを行っているところを私は承知しておりまして、九州農政局でやっている。あれがSNS上でかなり取り上げられていて、面白いという話になっているのですが、やっているのは農林水産省の職員で、行政に求められても、あの能力はちょっとないのかなという感じであるのですが、参考までに、九州農政局のあれを見ていただくのはちょっと面白いかなと思います。

以上であります。

○参加者Ⅰ ちなみに、それはどういうSNSなのですか。どういうものを行っているのですか。

○川又課長 2，3人の本当に純粋な職員が出てきて、バズらせることをやっている。

○参加者Ⅰ 具体的にどのように？

○川又課長 九州農政局は、農業政策などが一つの業務なので、一つの農家さんのところに行って取材をして、それを取り上げて、2人でコントをやってみたりということで、役人である私が見ても、正直、面白いのです。ただ、あの能力を求められても、なかなか「はい、わかりました」とはいかないかなと思っています。その中の1人は、今年だか去年だか、本省に異動になったそうで、これがまたやりづらさを生んでいるみたいなのですが、参考までに、あのような感じになると面白いのかなと思いますけれども、その能力を求められてもというところで、すみませんが、一言説明させていただきました。

○伊藤 すみません。今そこに乗っかってきたから、川又さんが「何かやりましょう」と

言うかと思ったのですが。

これは確か「BUZZ MAF F」というタイトルなのですね。MAF Fは農水省の英語ですが、これは本当にすごいと思います。

ほか、提案1で御意見のある方いらっしゃいますか。

○さん、提案1について、いかがですか。

○参加者○ 興味がある人であれば、村でメルマガとかを出してもいいのではないですか。登録したいという人に関しては見られるのであれば、別にいいと思います。色々なことに参加したいからという意見があるのであれば、そういうところのメール登録が可能ですよとしておけば、そこにピンポイントに、何月何日にこういうことをやりますとか、こういうのを予定していますから、どうでしょうか。一方通行でも情報がわかれば、ああ、やっているのだというのは受け取れるのではないかなと思いました。

○伊藤 ありがとうございます。まだうまく情報が伝わっていないという話がずっと出てきて、さっきの避難訓練もそうかもしれません。それだったら、メルマガを使うことで告知もできるのではないかというところだったかと思います。

ほか、提案1に関してはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、提案2ですね。2は、安全性の強化についてのプロセスやリスクについての住民への説明ということが書かれています。

さっきBさんに御意見を出していただきました。これは、結果的には1につながるころになりますが、事業所に任せている部分があるのではないかなというところがあるので、そこは村としてもしっかりやっていこうというところがあったかと思います。ここについて御意見のある方。安全性の観点ですね。

Aさん。

○参加者A 2番は、安全性の強化ということが主題と思うのですが、実際のところ、とても難しいと思うのです。専門的なことの塊のような気がしますし、そういう中で、事業者以外で何ができるのかといった場合、監視することになるし、監視するために、色々知識が必要だし、となってきたらいいのではないかなと思うのです。

さっき防災原子力安全課の方から、ネガティブな情報発信がメインになってしまっているという話があったのですが、そもそも安全性のことは国が定めている新基準があって、そこに沿っていくのが総意となっているわけで、そうなってくると、安全基準はこうなっているのだけれども、そこに対して、東海村の進捗率は何%ですか、まずは、その基準に対して、どうなっているのかということで、ポジティブなことも、進捗、現状という形で周知するのがいいのかなと。それぐらいです。

○伊藤 提案書の、今、自分たちでやること、地域でやることの中に、見に行こうという話を書いてあるのですね。これは、実際に皆さんが原発を見に行かれて、色々なことを考えたり、気づきがあったことから出ている御意見だと思いますので、この安全性を考える

上で、自分たちももっともつと見に行く。もしかしたら、ここから先、友達、家族に広げていくことにもつながるのかなということを感じました。

安全性に関して、前回、Rさんから最後に、Google Earthで見られるのではないかとこの御意見があったのですね。見た方はわかると思うのですが、見てみると本当に見えるのですね。しかもあれは、中から矢印が動くこともできるのですね。これはもしわかればなのですが、民間の施設は、当事者側から、これは出さないでくれと言ったら多分止まるはずで、ほかの原発のGoogle Earthを見てみたのですけれども、上からの映像は大体見えているのです。福島にしろ、松江にしろ、見えるのですが、下まで行って動くのは東海だけだったのですね。全部見ているわけではないのですが。これはどうなのですかね。これは村ではないか。原電の話かもしれないのですが、この間、Rさんからそれを言われて、見てみて、対策をしたほうがいいのではないかなと思ったのですけれども、川又さんではないかもしれないですね。

○川又課長 防災原子力安全課の川又ですが、その件に関して、私からこうでというのはなかなか言えないので、課題として預かって、確認はしておきたいと思います。

ただ、制限がかかっているのは事実でございまして、動くというのはどのレベルなのかもちよつとわからないのですが、そのあたりの対応はどうなっているのかは確認しておきたいと思います。

○伊藤 そうですね。少なくとも、安全対策基準が新しくなった段階で、テロ対策は明確に出ている。そのためには、できるだけ見えないようにしようということが書かれていたと思いますので、そこはまさに提案2につながるころかなと思いました。

ほか、提案2、よろしいでしょうか。

では、提案3ですね。前半も避難計画の話が大分出てきています。避難訓練についてとか、いかに早く案を取るかというところが出てきていますが、ほかに御意見のある方いらっしゃいますでしょうか。提案3ですね。

Tさんとか大丈夫ですか。

○参加者T 結構具体的にまとまっているなという形で、あまり言うことはないのかなという感じですので。すみません。

提案2とかでいいですか。

○伊藤 はい。

○参加者T これはフワッと思ったのですが、「安全性向上対策工事のプロセスやそれでも残るリスクについて、住民に丁寧に説明する」というのは、実際にやるとすると眠い話だなと思って。眠いというか、これに関心を持って聞いてもらえるにはどうするのだろうというのは実際思って、1とかならまだ何とかあれですが、安全性について丁寧に説明して、どのくらい聞いてもらえるのかというのは物すごく難しいなと感じましたね。そのくらいです。すみません。

○伊藤 ありがとうございます。専門的な話だから、どんどん難しくなってくるというこ

とですね。

○参加者T そうですね。

○伊藤 ありがとうございます。

Hさん。

○参加者H 提案2の話ですが、現場に行って、これはすごいものをつくっているのだというを見せてもらって、直接説明してもらおうと、ああ、大変すごいことをやっているのだと思いますので、説明とか、文書とか、ホームページといったレベルではなくて、私は、皆さんにできるだけ見てもらったほうが納得しやすいのではないかなと、今の話を聞いて思います。

○伊藤 たびたび川又さんに振ってしまって申しわけないのですが、今このタイミングだったら、申し込みをすれば、どなたでも見学は可能なのではしたっけ？ 今は制限がかかっているのではしたっけ？

○川又課長 お答えします。

多分、どなたでも自由にというところは難しいのかなと。実際に5月に見学会を実施させていただきましたが、私ども役所が事業者としっかり調整した上で、見学場所などを決めて、地方自治体や国の方などが見るところと同じようなところを見せてもらったというところでやらせていただきました。

ただ、一般の住民が「ちょっと見たいのだけれども」と言って行けるような状況には、今はなっていないと思っています。

東海村でいうと真崎にあるのですが、原子力のテラパークが一時的に移転しておりまして、原研通り沿いなのですけれども、「FOOD OFF ストッカー」の近くにあって、そこでしたら自由に行けると思いますので、そのような知識に触れるという意味では、まずはそこに行っていただくか、あるいは、茨城原子力協議会のほうでやっている原子力科学館がございますので、そちらに見に行っていただくかになるかと思います。

○伊藤 コロナ前は、事前に予約すれば見られたのですかね。ああ、今、後ろの方が首を振っている。見られなかったのだ。

○川又課長 コロナ前であれば、村内の245号線沿いに茨城原子力協議会の「原子力科学館」というのがありますが、あそこで週に2回、原電やJAEAなどの事業所の中を見学するコースをつくっておまして、そういったものはやっていたので、まず、そのような機会を利用することも一つかなと。コロナ前に施設見学を自由に受け入れていたかについては、私も今、情報を持ち合わせていないので、そこはお答えできかねるのですが。

○伊藤 今のHさんの御意見も、提案書に書かれていることも、いかにリアルに見られるかということは、自分ごとにするという意味では大きいと。もしそれが今うまくできていないのであれば、それをどう改善するかということになるのかなと思いますね。

提案2、提案3について、ほかに御意見のある方いらっしゃいますか。

よろしいですか。

提案4について御意見のある方。

これは、今の東海村としての特徴ということで、原子力関連施設が多くある。今日既に、まさにそれを活用した検討委員会をつくるとか、より深く考えていこうと。それが結果的に、提案5にある将来にもつながるのだというお話がありました。

Uさん。

○参加者U 僕が考えているのは本当に具体的で、実現できるかどうかは別としても、具体的に言っていったほうがいいなと思ったのがあったので。コロナ前に、I～MOのまつりを毎年ずっとやっていて、それを楽しみにしていたのですが、それを、例えば2日間とか3日間とかやるようにして、その中で、例えば、今まで提案があった1とか2とかのところも発表できるような場を設けるようなこともやっていったらいいのかなと思います。

魅力を伝えるというのも、子育て世代が東海村をどう見ていくかというところにターゲットを決めていかないと、結局、ぼやけてしまうと思うのですね。要は、発信するにしても、誰に見てほしいのか、誰に理解してほしいのかというのが明確でないと、見ている側としては、いや、これは自分に関係ないしと思ってしまうと思うのですね。だから、そういう部分で、的を絞って魅力を発信していくことが大事だと思いますし、また、中高生の子どもたちが、子ども時代のときにどう過ごしてきたかによって、いつかは村を離れたとしても、そういえば、子どものころ、このような生活をしたな、このように育ってきたなといって、結局は、大人になって、また東海村に戻ってくるといったこと、将来のことを考えた上でも、とにかく子どもたちの教育のことなどが大切になってくるかなと思うので、そういう思い出づくりのためにも、I～MOのまつりとか、東海村にはコミセンがいっぱいあるので、そこで高齢の方が、本当にボランティアになってしまうかと思うのですが、その地域の子どもたちに、自分の得意なものを継承していくことの交流。今、コロナで難しいと思うのですが、今後、そういうことも含めて、世代を超えて、地道に伝えていくことが大事になってくるし、また、今回の原発問題のことも同じように伝えていくことが大事になってくるのではないかなと思います。

そんな感じですかね。あと、また気がつけば出していきます。

○伊藤 ありがとうございます。地域の祭りで子どもと交流しながら関心を持ってもらう。これは提案1にもつながってくるところだと思いますね。

特に誰に見てほしいかというのは、前半、Dさんから話がありましたが、若い人たちがどれぐらい出ていって、戻ってきているかという状況の把握をした上で、子どもたちに、今の特色、特徴をしっかりと知ってもらう必要があるのではないかというのが、今のUさんの御意見だったかなと思います。

ほかに、提案4番。

Dさん。

○参加者D 先ほど、バズるみたいな話もありましたが、東海村の方々に、LINEを見ている方はいいと思うのですが、中には入ってくる人も定期的にはいると思います。

そうした人たちに向けてというのがありますが、最近、国会でもクーポンや給付金ということで、ああいう身近な話題になると全国的な議論になりますので、東海村も、原子力マネー・クーポンを大々的にやって議論を巻き起こせば、一つ手はあるのかなと思います。あまりネガティブにとらわれないで、聞きますけれども、いざとなったらやる。さっきのバズるではないですが、思い切ったことをやる。東海村の中であればいいのかなと思います。

以上です。

○伊藤 これは皆さんがおっしゃっているところで、東海村の特徴は、原発と、もう一個、原子力の関連施設がある。原発だけだったら、まさにそれをどうするかみたいな話になってしまうけれども、東海村はそれ以外に研究施設もたくさんあるから、そこも含めた特徴で、今の原子力マネーや原子力クーポンというところの話になるかなと、今、僕は聞いていて思いました。

Aさん。

○参加者A 言わせてもらおうと思ったことの10倍すごいことをDさんに言われてしまったので、ちょっとあれですが、私が言おうと思ったのは、出ていく人に「何で出ていってしまったの？」というのも大切で、原子力クーポンではないけれども、入ってくる人には「何で東海村に来たのですか」ということの確認ですかね。通勤に便利とか、就職先があってとか、仕事でとか、大概そうかもしれないのですが、あえて東海村ではなくて、ひたちなかとかでもよかったかもしれない。そこで、あえて東海村を選んだ理由を聞いて、そこから魅力を引き出していく、抽出していくという手がありますね。

○伊藤 ありがとうございます。いずれにしろ、転出・転入の理由をしっかりと聞くことで現状がわかってくるということですね。ありがとうございます。

ほかにいらっしゃいますか。

Tさん。

○参加者T 転出・転入で思い出したことがあって、これは提案4かもしれないのですが、3、4年前に、役所に転入の手続に行ったときに、ごみ出しの日とか、そういうものをもらった覚えがあるのですけれども、村に何があるのか、PRみたいなものをもらっていないくて、それを知らないまま過ごしている人が意外と多いのではないかなと思ったので、転入した人にパンフレットみたいなものを渡せばいいかなと思いました。私が忘れていたかもしれないのですが、そのあたりはどうすればいいのかなと今日思いました。

○伊藤 引っ越してくるときとか、必ず接触するタイミングですものね。ありがとうございます。

ほかに。

○参加者A 今のお話を聞いて、ふと思ったのですが、入ってきた方に、入ってきてから1か月後とか1年後とかにフォローする。「入ってきてどうでしたか」とか、「何か違和感を感じることはありませんか」とすると、よりいいのかなと思いました。

○伊藤 面白いですね。とにかく現状をしっかりと把握するということですね。

Dさん、どうぞ。

○参加者D 今、インターホンを押しても出ない人が多い。電話しても出ない人が多いので、東海村から発信されるこのメールアドレス、東海村からのこの電話番号は絶対に安全なのだと思います。受け取る側が安心して出られるメールアドレスや電話番号を決めて、村内に周知すればいいのではないかなと思います。

○伊藤 1か月後のフォローは、もしかしたら電話よりはメールで、このアドレスは公式のアドレスですよとすることかもしれないですね。受け手が安心する工夫をしていくことが、フォローアップするときの成功の秘訣だということかだと思います。

提案4の特色のところはかなり大きいですね。

かなりつながりますが、提案5、将来的な話は、財政的シミュレーションをまずしようというLさんの話もありました。

提案5について、ほかに御意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

Iさん。

○参加者I 魅力をつくり出すということなのですが、今、人口減少で、どこの自治体も魅力をつくり出すことに必死だと思うのですね。そんな中で、ほかとは違うような差別化のアイデアが欲しいなと思いますね。

例えば、これは原発は関係ないですが、明石市でしたか、すごく面白い市長かなにかがいて、離婚したシングルマザーのために、もとの配偶者から養育費を取ってくるみたいなことをやっている。あのくらいとがったことをやればメディアにも取り上げられますし、魅力にもつながるのかなと。だから、賛否両論あるような施策をぜひやってもらいたいなと思いますね。そしたら、東海村はこういうまちだと説明しやすいではないですか。ある意味、キャッチコピー的なもので、当たり前のやり方では埋もれてしまいますね。それには、賛否があるので、リスクはありますが、ぜひ、そういうのをやってほしいなと思いますし、実現したら、私も「ぜひこっちに来て」と言って、色々宣伝したくなりますよね。以上です。

○伊藤 ありがとうございます。まさに今のIさんの話で、4と5はすごくつながるところがあって、今、東海村はどんなところかと聞いたら、原子力のまち、原発のあるまちと言われると思うのですね。では、10年後、20年後もしくは50年後も原子力のまちと言うのか。原発はどうかかわからないけれども、もしかしたら、今日ずっと出ている、原子力関連の最先端の研究のあるまちなのかもしれないし、今のIさんの話のように、違う分野で売っていくのかということ、まさに4、5の中で考えていくことだということ、今日ずっと出てきた御意見なのかもしれないなと思います。まさに官と一緒に検討組織をつくるということですね。

Uさん。

○参加者U 魅力をつくり出すということで、今、東海村は干し芋になっていますし、マ

スコットキャラクターがイモゾーで、キャラクターがいっぱい出てきていますね。村内での干し芋はおいしくていいのですが、ほかの地域から見ると、東海村イコール原子力、原子力から干し芋という連想ゲームになって、そこを払拭することはできないかなと思ったら、さっきのテラパークや原子力科学館などで、実際に干し芋を販売するかどうかはちょっとわからないですが、原子力と干し芋とか、風評被害みたいなところを払拭できるようなことをやっていくのが、今のところ、現実問題では、一番取り組むべき課題なのではないかなと思います。

農業もそうですが、東海村は魅力のあるものが色々あると思うのですね。先ほど言い忘れたのですが、東海村が合併する前の石神村と村松村ですか、僕の知らない、東海村以前からずっと受け継がれてきているもの、継承できるものを、頑張って時代を生きていた御高齢の方は何かしら持っていると思うので、それを今の子どもたちに伝えていくということをやっていけば、そういうものが世代を超えてつながっていく。また、東海村の村という名前自体、確か茨城でもそんなになかったと思うので、村だからこそ、村民が地域に根強くあれして、大人も子どもも仲よくやっているというアピールになっていけば、安心・安全ということのイメージにもつながっていくのかなと思います。

○伊藤 いかに村に愛着を持てるかということですね。ありがとうございます。

よろしいですか。

では、最後です。提案6番。基本的には、これはちょっと性質が違くと最初に申し上げましたが、場づくりの話。中学生でもこういう場をつくらうというのが今日出た御意見でもあります。

御意見のある方いらっしゃいますか。

Vさん。

○参加者V この件については先ほども申し上げて、“自分ごと化”会議みたいなものを継続的にという話をしたのですが、前のとき、このことについて議論したときに、特に原発問題は二項対立みたいな構図になりやすいから、議論の場を多くつくるのが必要だということで、まさにこの場みたいに、白も黒もつかないような冷静な議論の場になるような配慮が絶対必要だと思っていて、それで、こういう第三者のコーディネーターに入ってもらうとか、場合によっては、自分らでやろうと思うと、むちゃくちゃ大変だと思いますが、行政側が入ることで、中立性が保たれるといった仕組みを考えながら議論の場をつくっていかないと、言葉はちょっと悪いけれども、不毛の議論を繰り返すだけになってしまって、最悪のパターンだと、村が半分に分れてしまうみたいなことになってしまうと、何のためにやっているのかわからなくなってしまうというのが一番心配とか気にしているところで

○伊藤 何でもかんでもやったらいいというわけではないということですかね。

Aさん。

○参加者A そうなのですね。本当にそのとおりだなと思います。傍聴席の皆さんの意見

などをまとめているものを拝見しても、比較的ネガティブな御意見が多くて、「同じ参加者ばかりが話してというのは俺のことかな。すみません」という思いがちょっとしているのですが、傍聴席の皆さんも結構全体像が偏っているところがありますし、そういった環境の中で、「よーいドン！ さあ、どうぞ話して」というのはやはり難しいですね。

なので、さっきお伝えした、東海村が大切だからということなのですが、子どもの夢だったりもあるので、私、偉そうに言うのですが、私は二宮尊徳が結構好きで、知っている人がいるかもしれないですけど、「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」というのは僕の大好きな言葉で、もっとこうすべきだと理想ばかり言っている、経済的なものが伴っていなければ、皆貧困化していつてしまうので、そういった観点から、東海村はこれからどうしていったらいいのかと考えたいと思うのですね。

そうになったときに、また偉そうに言ってしまうと、心理学などの観点から、「自分を愛する以上に他人を愛することはできない」という言葉があって、地域が大切だということだったら家族が大事だし、家族が大事だな、仲間が大事だと思う前に、自分自身を大切にしないといけないので、そういったところから、お互いがかけがえのない東海村にいる仲間なのだ、俺たちは東海村にいる仲間ではないかというものをうまくつくって、そこから原発の話などに進んでいくように何とかできないかなと思うのですね。その答えは出ないですが。全体的なイメージです。

○伊藤 今回、テーマは原発ということになっているけれども、そこは、東海村の将来をどうしていくのかということと常にセットになる。これは多分、今回、子育てがテーマであったとしても、防災がテーマであったとしても同じことで、今回はたまたまこういうお題があったからこそ一緒に考えていく必要があると、Aさんが初回のときからずっとおっしゃっていたところではないかなと思いますね。

I さん。

○参加者 I 先ほどのAさんの話に続く話なのですが、私は、この会議の場は本当にすばらしいなと思っているのですが、こういう会議の場を正しく運営するのは結構難しいのかなと思っていて、その理由は、傍聴者のアンケートは、私も結構目を通したのですが、例えば、金で解決、嫌なら出ていけ、原発の後から住んだ人に反対するのはおかしいなど、粗暴な発言が放置されるなど、とんでもないという話を書いてあるのですね。これこそ本当に的外れもいいところだなと思う意見です。というのは、この場は、表現の自由が確保されているわけではないですか。例えば、一個人が言った意見に対して、それは違うよと論理的に返すのはいいと思うのですが、発言すら駄目だよというのはあってはならないと思うのですね。ファシリテーターとして、それはよく見るではないですか。これは誰の責任で載せたのかわかりませんが、この内容を是として載せたのか、この資料をつかった人に聞きたいですね。

あとは、私は何を言われても、自分の意見には自信を持っているので、別に何というこ

とはないですが、例えば、自信がなくて、こういう場に集まっている人がいるわけではないですか。その人が本音で話したことについて、傍聴者からとんちんかんな指摘をされるのは、この議論の場がなかなか自分の意見を言えない場になってしまうと思うのですね。だから、この辺は改善したほうがいいのかと思います。

あと、他人の表現を否定するのは絶対にあってはならないなと。これが本当に差別的な発言とか、法律違反とか、本当にヘイト的なものだったら、もちろん放置してはいけないと思うのですが、一意見だと思うのですね。金で解決、嫌なら出ていけ、原発の後から住んだ人に反対するのはおかしいというのも立派な建設的な意見だと思うので、これを否定するのは絶対許さないほうがいいのかと思います。なので、この資料をつくった行政の担当ですか、その人の意見をちょっと聞きたいですね。

○伊藤 アンケートについては、構想日本と役所側で相談をしたのですが、今回、原文を出しています。そこで対立をつくりたくないというのがまずありました。

○参加者Ⅰ でも、逆に、対立になってしまわないかなと思いますし、こういうセンシティブな問題を話すときには、ある一定の対立は仕方ないと思うのですね。その対立の中からまた意見が出てきて、建設的な意見になったりする。なので、対立は、ある程度は許容したほうがいいのかいけれども、とにかく法律違反、憲法に反するようなことは最初から載せませんよと周知するのも大事ではないのかなと思うのですね。

○伊藤 そこは色々な御意見があると思いました。このアンケートの取り扱いについては、私も大分迷いました。ほかの自治体との違いも大きくあったと思います。

ただ、中身の議論がほぼ終わった段階ですが、少なくとも個人の立場からすると、今、議論しているのはこの皆さん。参加者の皆さんが、どんな状況であっても自由に発言しやすい、安心できる空間をつくらなければいけないというのは、いかなる場でも同じだと思います。もしそれがちょっと制約されてしまったら、申しわけないとしか言えないのですが。

○参加者Ⅰ 私は、むしろ望むところだと思ってしまうタイプなので、全然いいのですが、「その発言はおかしい。放置するな」なんて言われたら、若い人だったら絶対嫌だと思いますよ。「いや、それはこっちのせりふだよ」と言いたくなりますよね。

○参加者A 強いですね。

○伊藤 一旦、提案書の内容に戻りましょうか。提案6は、まさにこういう場をどうつくるか。Vさんにおっしゃっていただいたように、“自分ごと化”会議とは何かといったら、賛成、反対ということを決めるための場ではなくて、色々な人たちが集まって、まさにテーマである自分ごとにしていくということで、その結果として、もしかしたら、どこかのタイミングで、自分なりに判断しなければいけないときが出てくるかもしれませんが、少なくともそのための準備をする、きっかけをつくるのがこの場なのだというのはずっと言ってきたところだと思いますので、だから、今のVさんのお話のように、そういう場が必要ではないかと。

今回は20人ぐらいいる。では、これで村民全体がそうなったかという、当然そういうわけではないので、そういう場を色々なところでつくっていけないかというのが今の御意見だったかなと思います。

提案書の中身について御意見のある方、もうよろしいでしょうか。

Dさん。

○参加者D すみません。今、提案6でも大丈夫ですか。

○伊藤 はい。

○参加者D ここにあるのですが、確かに、前回、前々回、そういう話があったのですね。議論の場に、考えているが、結論が出ない人を呼べればいいなと思いますが、あまり考えたことのない人を呼ぶことは重要かという、例えば、あまり考えたことのない人が僕だったとして、原子力発電所が再稼働しますといっても「ふーん」、原子力発電所が廃炉になりますといっても「ふーん」という感じがするのですね。なので、あまり考えたことのない人を呼ぶことは本当に重要なのかというところはちょっと疑問に思いました。

○伊藤 ここは僕の意識も若干入っていると思いますが、この場に来てから考え始めている方々は当然いて、要は、5回を通して、あまり考えなかったという人が重要だという趣旨ではないと思うのです。結果的に、その人たちが変化をしていっているという意味で、スタートのときには、とりあえず当たったから来てみたという人も含めて、色々な人たちに集まってもらう、考えてもらうということかなと思っているのですね。

○参加者D わかりました。

○伊藤 ほか、よろしいでしょうか。

Uさん。

○参加者U 今ちょっと思った。6番のところなのですが、これは言っているのかどうか、僕もちょっとわからないのです。僕が一番最初に言ったことの中で、最終的に誰が責任を持つのかというところに絡んでくるのですが、結局、この“自分ごと化”会議の中で、内輪で話をしていることは、誰も責任者がいないのですよね。というのは、実はぼくももっと感情的になりたいのです。「これはどうなのですか。今まで僕はだまされてきましたよ。東海村に住んできたけれども、急にJCOの事故があつてといったことで、そんなことは全然聞いていない」とか。そういう意味では、今日の会議に原発関係の責任者が誰もいないから、ぶつけるところがないのですよ。そういうところでも、それをあえて持ってきていないというところが、今回の“自分ごと化会議”のステップもやはり大事なのかなとは思っているのです。

僕も、さっき言っていたように、YouTubeのような配信はどうだと思ったのですが、いきなりそれをパーッとやってしまうととんでもないことになってしまいますし、そういう意味では、いい方向にバズればいいですけども、大反対の人に火に油を注ぐような結果になっても困るので、そういう意味では、ステップを踏むということは大事だなと思うのですけれども、ただ、僕としては、もっと感情的に、賛成、反対の話をしたいなと。

そういう意味では、僕は福島の見察には行っていないので、本当は、今日の資料の中にも、参加者の方がこういう状況を見ましたという写真が何枚かでもあれば、ああ、僕も行ったかったなと思ったりしたのがあったのですが、その辺は、先ほどのGoogle Earthのあれではないですけども、見せていいものとか、見せては駄目なところとか、色々なところの報道の規制もあるから、難しいと思うのです。

ただ、そういうのを含めてステップを踏んで、この“自分ごと化”会議は、白黒つけるということではなくて、賛成の人は賛成、反対の人は反対で、もっと白熱した議論でいいと思うのですね。全然興味がないという人は、最後まで興味がなくてもいいと思うのです。そういう人もいないと議論にならないので。

あと、次回には、意見を言える、お伺いを立てられる方を呼んでもらえばいいかなと思います。

○伊藤 若干補足というか、あれですが、Uさんは途中、参加できなかったタイミングが何回かあったと思うのです。その中で原電の方に来てもらった場もありますし、この場の中で、誰一人として賛成・反対を言うてはいけないというルールは当然ないのですね。ただ、場として、最後にまとめるときに、このグループとしては賛成です、反対ですというものではないとしているので、今までも、「私は賛成だと思いますが」とか、「私はちょっと違うと思いますが」ということを御発言された方はたくさんいらっしゃったと思うのです。

あと、福島に行った際の資料は、確か第4回目ぐらいのときに出していて、送ってきていないのかな。それは何か考えますので。すみません。

Tさん。

○参加者T ちょっと関連するかもしれないですが、今、賛成・反対は抑えきみという趣旨なのですけども、1回ぐらい、代理戦争みたいな感じで、賛成側の人、反対側の人、中立側の人を戦わせてみるというか、そこで白熱した議論を見ることで、ああ、私はこっち側だなというのがわかるような気がするのですね。それをいきなり自分たちが前面に立たされてやられると結構厳しいので、もともとやっていて慣れている方々を前面に立てて、白熱した議論を見て、その後ぐらいに、そもそも自分はどっち寄りなのかといったことではなくて、これはどうなのだというのが芽生えてくるような気がするのです。全体趣旨としては、賛成、反対を決めないというのはいいと思うのですが、それはそれとして、賛成側の人と反対側の人とで対照的な意見が多分あるので、それを戦わせるというのが1回あってもいいかなとちょっと思いました。

○伊藤 ありがとうございます。

時間が大分迫ってきているので、ここで一旦締めたいと思うのですが、まさに賛成側の人、反対側の人で議論してもらった。2回目のときに、一応そういう考えを表明しているお二方に来てもらったりしている。そこはちょっとわかりにくかったのかもしれないですね。

○参加者T ちょっと抑えていたような気がする。その趣旨に合わせて、少し抑えぎみだったのかなという気がするのです。

○伊藤 ありがとうございます。

最後に、皆さんから一言ずつ感想を言ってもらいますが、提案書の中身について、議論としては、ここで一回締めたいと思います。

「意見提出シート」に皆さんに御記入いただいたこと、また、こういうところを書いてあることも含めて、最終的に少し修正をした上で、皆さんにもう一度御確認いただくようにしたいと思っております。

「意見提出シート」の中には、活用の仕方も含めて御記入いただきたいと思っております。

時間が押しているのですが、お一言ずつ感想を言っていただきたいと思います。

では、こちらからいきましょうか。Rさんから順番にいきたいと思います。

○参加者R 今回、この“自分ごと化”会議に参加して、私は本当にうれしいのです。普通は絶対会わないような方たちに会って、意見を聞くことができたし、見学にも色々行けたので。

これに参加するので、家族で結構話をしていまして、その結果、うちの息子は職をかえました。今までスタンドにいたのですが、年明けから原子力の警備のほうに行くことになりました。これを聞いて、本人もすごく色々考えることがあったらしくて、2回目が終わった後に、見学で福島にもいったのですよ。福島の現状を見て、ちょっと考えることがあったみたいで、この仕事でなく、原子力のほうの力になりたいということで、そっちのほうになったりしたので、私は本当にこれに参加して良かったです。

○伊藤 ありがとうございます。

では、続いて、Tさん、お願いします。

○参加者T 今回、ほとんど参加させていただいて、非常に良かったと思います。同じようなことなのですが、原子力施設などは本当に見る機会が少ないので、そこら辺は非常に有意義だったかなと思っていて、あと、この会議自体も、色々な人たちから普段聞けないような意見を聞いたり、私も結構自由に言ったり、非常に良かったなと思っています。原子力に限らず、こういう機会が色々あればいいというのが率直な感想です。

すみません。あまりまとまっていないのですので、まずかったですね。

ありがとうございました。

○伊藤 ありがとうございます。

Qさん、お願いします。

○参加者Q どうも皆さん、お疲れさまでした。

私の意見なのですが、10人いれば、やはり十人十色の意見があるのだなというのは感じました。私は原子力関係に勤めていて、ほかの皆さんがどのような考えを持っているのかな、意見をちょっと聞いてみたいなと思ったのが参加のきっかけでした。その中で、比較

的肯定的な意見が多いのかなと。前から色々なところに行っていますが、勤めている中で、ほかのところへ行くと、原子力自体、大反対というところもあります。そうかと思えば、地域との関係がよくて、賛成が多いところもありますので、それから見ると、色々な意見があっていいのかなと。逆に言えば、今、自分がやっている仕事の中で、何が足りないのか、今後どういうところに気をつければいいのかなというのが少し見えたような気がしました。

どうもありがとうございます。

○伊藤 ありがとうございます。

○さん、お願いします。

○参加者○ 私は何回か抜けたことがあったのですが、貴重な御意見を聞かせていただいて、大分控え目なのですけれども、少しだけ言わせていただきました。ただ、何かしら不安がつかまといいます。評価されるとか、見たら、無言電話とか、変な電話がかかってくるとかあったので、どうかなと考えたこともあったのですが、Iさんみたいな方がいらっしやると、似たようなところがあるので、正直、ああ、心強いと思いました。

参加できてよかったと思います。ありがとうございました。

○伊藤 Vさん、お願いします。

○参加者V 私は、前にちょろっと言ったのですが、原子力関係の仕事をしていて、反対派の集会へ行ったり、賛成派の集会へ行ったりして、反対派の集会へ行くと、それが世の中の意見なのかなという気分になってしまうし、賛成派の集会へいけば、そういう気分になってしまうのですが、今回、この会議に参加した理由は、普通の人はどう考えているのかを知りたかったということで、普通の人、自分と同じように、自分の生活に関わるような形で、原発をどう考えているのかなと。5回、皆さんの御意見を聞かせてもらって、ここは賛成だけれども、ここは反対というのもあったりしているので、ちょっと安心したというか、極端な意見に流されず、普通の人、普通の人なりに一生懸命考えるのが大事なのだなというのを、この会議を通じてわかることができたのが一番収穫だったなと思います。

本当にありがとうございました。

○伊藤 ありがとうございました。

Pさん、お願いします。

○参加者P 私も、この会議に参加できて本当によかったと今思っています。なかなか自分の意見や考えが及ばず、発言する機会は本当に少なかったなと思って、そこも自分なりの反省点だなと思っていますが、原子力関係に勤めている方の話を聞くこともできましたし、村民の皆さんはどう思っているのかということも聞けたのは、大変有意義な時間を過ごせたと思います。

村のことにに関して、結構無関心だった部分もたくさんあるので、自分が気になったことは広報紙を読んだりして、情報を得られていたらいいなと思っています。

以上です。

○伊藤 Lさん, お願いします。

○参加者L この会議に出席できたことはとても感謝しています。私は最初から、この問題に対しては、きちっとした意見を持っているつもりです。この会議に出たからといって、それが揺らぐことはありませんでした。ただ、色々な意見を聞いて、自分の持っている意見の中に取り入れて、改善していこうといった部分はすごくありました。そういう意味ではとても感謝しています。

私の親族に原子力関係者がおりますが、たまたまこの会議に出席した結果は、私もそうですけれども、うちに帰ったら、今日の会議のことはどこ吹く風かのような生活をしています。たまたま1通のアンケートをもらったときに、原子力という村に興味を持って、何となく書いたアンケートからここまでたどり着いたという結果だけで、生活自体はあまり変わらないかなと思っています。でも、本当にありがとうございました。感謝しています。

○伊藤 Hさん, お願いします。

○参加者H 私は当初、この葉書をいただいたときの想像とは全く違うような会議の中身で、これからどうなるのだろうと非常に不安な気持ちで参加させていただきましたが、最後の最後まで、色々な意見などを聞いてよかったと思っています。

なぜ参加しようと思ったのかというと、皆さん、原子力について、本音でどのように考えているのだろうかということに興味があつて、皆さん、冷静に、非常によくよく考えて、色々な意見があるのだなというのを知ることができたのは非常によかったと私は思っております。

ありがとうございました。

○伊藤 Fさん, お願いします。

○参加者F 私も、この会議に参加させていただいて、本当によかったと思います。自分から手を挙げて参加するとなると尻込みしてしまうと思うのですが、無作為抽出で選んでいただいてということで一歩踏み出せたと思います。

参加して一番得られたことは、皆さんの意見を聞いて、ああ、こういう意見もあるのだなということで、すごく勉強になりました。参加するようになって、自分でも原発のことなど、目に止めるようになりましたし、そういったところは成長できたと思います。なので、“自分ごと化” 会議みたいにな、無作為抽出で選んでというのをこれからも続けていただけるといいなと思います。

以上です。ありがとうございました。

○伊藤 Eさん, お願いします。

○参加者E 私なりの感想ですが、普段はなかなか見ることができない東海発電所と東海第二発電所、そして福島第一原子力発電所の見学が非常に印象に残っています。東海第二発電所では防潮堤の建設現場、福島第一原子力発電所ではALPS処理水の現物を見ることができて、非常によかったなと思っています。

また、会議の参加者は皆、東海村をよりよくしたいという意気込みがあるように感じられました。

またこのようなチャンスがあれば、参加したいと思っています。

ありがとうございました。

○伊藤 I さん、お願いします。

○参加者 I 私も、この場を設けてくれた行政の方ですか、本当に深く感謝しています。一般の人ではなかなか経験できないようなことを経験させてもらって、さらに発電所の見学ということで、福島もそうですが、自分にとって本当に価値のある経験をさせてもらったなと思って、繰り返しになりますけれども、深く感謝しています。

あとは、今回のこの会議がどのように未来につながっていくのかというのは興味があるし、非常に楽しみです。この会議が行政のただのパフォーマンスで終わらないことを本当に願っています。

ありがとうございました。

○参加者 D 僕も参加してよかったなと思います。こういった村民の声をまとめたものはなかなかなかったと思いますので、今回改めて、村民の声として提案書をまとめたという意味では、これは大きな成果だと思います。

あと、私としては、原子力発電所を通して、今後、東海村をどのようにしていきたいかということを考えるようになった。本当に自分ごと化になったなと感じました。

以上です。どうもありがとうございました。

○参加者 U 皆さん、お疲れさまでした。

この場を設けていただいた行政の方々には本当に感謝しております。こういう場の感じであれば、毎回、全部出席して、最初からやり直したいぐらい、本当に充実した内容でありますし、また、こんなに自分自身の意見を言うのも学生のころ以来で、本当に自分ごと化ということで考えることができたなと思っています。

自分の住む地域のことですので、これを機に、地域に戻って、色々な人に話をしていきたいなと思っていますが、これは強制することでもないですから、興味がない人は、別に興味がなくでもいいと思うのです。でも、自分は知ってしまった以上、意識として、これからどうなるかということはこれからも見ていきたいなと思いますが、中には、自分はあえて見ないで生活していきたいという人だっていると思うのです。そういう人たちに強制することもないと思います。ただ、自分の中では、今回の“自分ごと化”会議に出席して、皆さんの意見を聞くことによって、今後に活かしていけたらなと思います。

以上です。ありがとうございました。

○参加者 B お疲れさまでした。

この会議を通して、今までそんなに考えなかった自分が住んでいる東海村により関心を持てたのは本当によかったと思います。

あとは、新型コロナウイルスのおかげで、ちょっと時間が足らなかった気がします。

あと、このような会議で、的外れな意見を言っていると思うのですが、それが本当の住民の声だということで、冷静に行政の人に聞いてもらおうという場で、すごくよかった気がするのです。今後、このようなことを続けてもらいたいなと思いました。

ありがとうございました。

○参加者A お疲れさまでした。ありがとうございました。

仕事柄、土日がメインの仕事だったりするので、時間調整をしながら全部に参加させてもらいました。本当によかったなと思っています。

当たったという案内が来まして、東海の文化センターで、まず、全員のプレスリリースというか、アナウンスがありますと。その時に行くまで、僕は、原発のことを話すのだったら、再稼働するかしないかにしようと。再稼働しないのだったらしないで、動いたら動いたで、賛成、反対ではないですが、結論がそこにあるのだから、話すことなんて、そんな意味ないだろうと正直思っていたのですね。伊藤さんの話で、結論を出すものではないということの意味ということで、結論を出さない会議とは何？ とすごく思ったのですが、そこで腹落ちをして、その中で最終的に考えるのは、自分ごと化なので、自分ごと化していくには関心が必要で、関心を持つようにするにはどうしたらいいのかなと。そしたら自分の中では、郷土愛がすごく欲しいなと思って、その郷土愛を育んでいくにはどうしたらいいのかというと、最終的には、色々なことに参加することかなと、僕の中では腹落ちをしています。

なので、東海村の行政のこととか、ぜひ案内してもらいたいなと思いますし、率先して参加して、少しでも自分が役に立てることがあるのであれば貢献したいなと思っています。

本当によかったです。ありがとうございました。

○伊藤 皆さん、ありがとうございました。最後、本当に生の声だったなと思います。多分、アンケートにも色々御記入いただけるのではないかなと思います。

時間がちょっと延びているのですが、1回目のときに、松江で、このテーマで、住民グループ主催でやったときの話をさせていただいた福嶋さんに今日、来ていただいていますので、最後に、福嶋さんから一言いただきたいと思います。

○福嶋 皆さん、本当にお疲れさまでした。福嶋です。

松江市との共通点はいっぱいあるのですが、ちょっと違うところは、先ほど伊藤さんが言われたように、市民の実行委員会が主催したというのがあります。それから、同じ原発立地の自治体でも、東海村と松江市の違いなのだと思うのですが、無作為抽出の21人の中には、原子力関係の仕事をしている方が一人もおられませんでした。逆に、脱原発で活動している方も一人もおられませんでした。原発は必要だという意見の人や、ないほうがいいという意見の人はもちろんいたのですが、一番多いのは中間。中間というのは、100人いれば100人の立場がありますが、中間の人たちが両方の話を聞きながら議論したみたいな雰囲気なのですね。でも、思うのは、原子力関係の仕事をされている方が結構いらっしやっても、議論の中では、無作為抽出で選ばれた一人の村民として話をされた。そこは徹

底していて見事だなと感じました。

それから、松江も傍聴者は毎回60人から80人ぐらいあって、脱原発の活動をしている方もたくさん来られたし、電力関係の仕事をしている方もたくさん傍聴に来られたし、中には、中国電力ではないのですが、別の電力会社の元トップだった方がわざわざ見に来られたこともありました。

先ほど、傍聴者の方の意見の議論がちょっとあったのですが、松江市で“自分ごと化”会議をやったときは、参加者はもちろんなのですが、傍聴者から物すごく評価をもらったというのが特徴でした。

この松江市の提案書にも、傍聴者からいただいた声を載せているのですが、時間がないですから、ごく簡単にしか話せませんけれども、「色々な意見の人が安心して話せる場づくりがとても大切だとわかった」とか、「こんな場が現実に可能だというのは、すごく民主主義の可能性を感じた」とか、「傍聴者なのだけでも、自分自身も会議に参加したような気持ちになって、自分のこととして考えました」ということ、皆別々の方です。それから、「自由な発想のもとに、何でもありの会議は素晴らしいです。誰が正しいかではなく、どうしたら幸せと感じる生活ができるかを考えるのは、まさに私自身の望むことです」とか、最後、もう一人、「多様な立場の人の意見が出た。声を出していないだけで、考えていることは皆たくさんあるということが可視化できたのがとてもよかった」といった意見が傍聴者から寄せられました。

この中身は、東海村のこの会議も全く同じだったと思うのですね。松江市で傍聴者の方が評価された中身は、まさにここでも同じようにあったと思うのです。市民が主催しましたので、実行委員会の主催者側も、参加した市民の側も、ここまでやったのはすごいねみたいな雰囲気は傍聴者や周りにベースとしてすごくあったのですね。行政が主催すると、どうしても市民の方は、ここが問題ではないかとか、ここがまだ足りないといった問題指摘モードで見るといえるものがあるのかなと思いました。もちろん、行政に対して、おかしいところは徹底して批判するのはとても大事なことです。いいことをしているときに応援するのも、市民にとっても必要なのではないかなと思いました。

松江市の“自分ごと化”会議も、それを実現していくために行動しよう、色々なことをしようよということがあって、色々な派生的な動きも出ています。

これは話したかもしれませんが、傍聴した隣のまちの方は、市民がこんなに議論しているのに、議会はどんな議論しているのだろうとあって、自分の市に帰って、議員を呼んで、議会を知る会みたいなものを開くとか、“自分ごと化”会議から色々なことが生まれています。

この松江の提案書の「はじめに」の部分の最後は、「皆が自分ごと化をしていくために、自分たちはこれからも何かをしたい。その動きが松江から日本中に広がれば、次の、さらにその次の世代にきっと感謝してもらえと思う」という言葉で結んでいます。

松江から、さらに中身を深めて東海村に広がったと思うのですね。もちろん、自分のま

ちがよくなるのが一番なのですが、さらにまた色々なところに広がるように、私たちと東海村の参加者や関係者の皆さんと一緒に、また何か取り組みができればいいなと思います。そうしたら、次の世代、その次の世代に感謝されると思うので、これからもぜひよろしくお話ししますということをお話しして、終わりにしたいと思います。

どうもありがとうございました。

○伊藤 ありがとうございました。

これで、議論としては終わりになります。私は5回、コーディネーターを務めさせていただきました。ずっと同じことを言ってきました。こういう小難しい話をどうやって楽しくしていくかということが、この“自分ごと化”会議を進める上でのテーマでもありました。正直言って、IさんやAさんがおっしゃったように、ほかとは若干違う雰囲気があるのは間違いないかもしれない。けれども、福島さんに言ってもらったように、この場の中での話の雰囲気は多分どこでも一緒だし、5回やってみて、最後、こういう形ができたということは本当によかったなと思っています。

この提案書をつくって終わりではなくて、途中でお話をしたように、抽選で当たった人たちで、多分皆さん、顔見知りほとんどいなかったと思うのですが、こうやって5回お付き合いいただいたので、できればこの後、グループをつくって、引き続き、意見交換の場をつくったり、では、これはどうやったらできるか、自分たちでも考えていこうといった意見交換の場をつくっていききたいと思っています。

まずは、5回にわたって、スタッフも含めて御参加いただいたこと、本当にありがたく思っています。皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

○司会 伊藤様、長時間にわたる会議の進行、ありがとうございました。

全体総括

○司会 続きまして、次第の3、全体総括に移ってまいります。

ここでは、これまでの全5回会議を通しましての総括としまして、構想日本代表の加藤様と山田村長のお2人から所感等を賜りたいと思います。

では、まず初めに、加藤様、よろしくお願いいたします。

○加藤 構想日本の代表をしております加藤です。よろしくお願いいたします。

東海村“自分ごと化”会議は、始めて丸々1年間になります。構想日本は今までこのような会議を全国で160回ほど、様々なテーマでやっていますが、丸1年をかけたのは初めてです。途中、コロナで何回か延期になったこともあります。その間、参加者の皆様、村の職員の方、傍聴者の方、メディアの方にこの場を共有していただいたことに関して、本当に心からお礼を申し上げます。

延期になったことについては、その間に、原電や東電福島第一の廃炉の状況の見学をしていただいて、じっくり考えていただく時間があつたことはよかったと思っています。

福島第一に行く途中の道では、ガラスが割れたまま、車もそこにあるままなど、10年間、時が止まったような光景を皆さんが目の当たりにして、原発をより自分ごとと感じたということ伺いました。

私たちがこの会議で目指すのは、先ほど伊藤が申し上げましたように、何か結論を出すということではないのです。ごみの問題をテーマにやっているまちもありますし、様々ですが、自分ごとにしていただくということに尽きるのです。

今日の会議の中で、まどろっこしいという御意見がありました。今まで、傍聴者の方からも、そういう意見がありました。

むなしいとか、机上の空論だという御意見もありました。しかし、むなしいと思ったり、机上の空論ではないかといらいらししているということ自体、自分ごとにしていただいていることのあらわれだと思うのです。多くの自治体で自分ごと化会議を開催してきましたが、最後に、むなしいということをあんなに一生懸命言う人はいませんでした。そう言っている御本人が、この中で、もっと話をしたいとおっしゃっている。もっと議論をしたい、提案を実現したいということですから、私はとてもありがたく思っています。

原発でもごみでも何でも同じだと思うのですが、例えば、東京の人は、原発問題を他人ごとだと思っています。自分に関係ない。向こうにある問題と位置づけています。東海村は原子力関係の機関が多く、状況は東京とは違う。私は、先ほど福島さんも発言されたように、ここから始まって、どこかでさらにいい議論ができるようにしていきたいなと思います。

「自分ごと化する」とは、「健全な加害者意識を持つ」ということだと思います。ごみ問題では、自分もごみを出している一人ですよ。原発だってそうなのです。東京を含めて、東電の管内の人は皆電気を使っています。使っているということは、何千万分の1かの加害者でもあるわけです。温暖化だって同じです。ペットボトルのお茶を飲んでも、そのペットボトルはプラスチックでつくっているわけですし、CO₂を出しているわけですし、工場で電気をいっぱい使っている。ですから何億分の1かの加害者です。むなしいなという気持ちがあったとしても、そういう、いい意味での加害者意識を持たないといけないのではないのかなと思うのです。スウェーデンのグレタ・トゥーンベリという人は、本当にまだ少女と言っているいい人ですが、そういうことを超えて活動しているわけですから、私は、ぜひ皆さんも、そういう意味で次のステップをつくっていただければと思います。

先ほど、提案1から6までの順番を変えたらどうかという意見がありました。そういう考え方もいいなと思います。提案1から3は、どちらかというと、従来型の原発の問題ですね。提案4から6は、今後どうしていこうか。これは、東海村は、原発だけでなく、色々な機関があるから出てくる意見です。

もっと激しい議論をやったほうがいい、白熱した議論がないという意見がありました。私は大いにやっていただきたいと思います。相手の話を聞かずに非難するのは良くないで

すが、皆考えが違うのは当たり前のことです。白熱した議論になるのは「自分ごと度」が高いことの表れですから。東海村は、村が主催じゃなくても、住民の方が、松江と同じように、自分が主催でやろうと。そこに村が費用を補助金で出すというのはどうでしょうかね。そういったやり方を含めて考えていただければ、さらにいい議論ができるのではないのでしょうか。

これまで構想日本は160回ぐらい、こういう無作為で選ばれた方に議論していただく会に協力してきました。参加者は全部で1万人を超えています。皆さんの仲間が全国に1万人います。そのうち多くの方がそれぞれ、その場所で、色々な活動を始めています。そういった、ほかのまちの「自分ごと化会議」OBの人たちとの横のつながり、意見交換も有益です。私たちは、そのための協力もしたいと思います。

長くなって恐縮なのですが、今日皆さんの議論を伺っていて、1つだけ思い出したことがあります、最後にひとつ、あるお話を御紹介したいと思います。年末になると、よく手帳を出している高橋書店という本屋の宣伝があります。この高橋書店が、民間のいい言葉、ちょっとしたことわざみたいなことを募集しています。その選考委員の一人から聞いた、ある年配の女性から応募された話です。

子どものころ、学校の床や廊下を掃除する。掃いて、雑巾で拭く。拭いた雑巾をバケツで洗うと、バケツの水がすぐ汚く、真っ黒になる。誰か、この水をかえないかなと思う。小学生なので、バケツの水は重いですし、冬なら冷たいですし、行く途中でこぼれることもある。誰もかえない。誰かかえてくれないかなと。

その時、先生が黒板に「誰かとは自分のこと」と書いたのです。その当時、小学生の女の子だった人が、年をとっても、ずっとそれが常に頭にあった。事あるごとに「誰かとは自分のこと」というのを思い出したのですね。誰か人がやってくれたほうありがたいです。面倒くさい。手間がかかる。自分も忙しい。でも、事あるごとにそれを思い出して、「誰かとは自分のこと」と思ってやってきて、その結果、とても豊かでない人生だったと振り返る。そういう話だったのですね。私はこれに尽きるのではないかなと思うのです。自分ごと化とか、さらに当事者意識なんていうのもっともらしく、難しくなりますが、全ては「誰かとは自分のこと」に尽きるのではないかと私は思います。

ちょっと長くなりましたが、感想を申し上げました。

本当にありがとうございました。

○司会 加藤様、ありがとうございました。

続きまして、山田村長、よろしく願いいたします。

○山田村長 どうも皆さん、御苦勞さまでございました。5回、視察も含めると7回ぐらい、皆さん方には、お忙しい時間、こうして参加していただきまして、本当にありがとうございました。そして、最後に皆さんから、参加してよかったと言ってくれたことで、私もほっとしたというところで、改めて感謝申し上げたいと思います。

構想日本の加藤代表、伊藤さんにもしっかり仕切っていただきまして、本当に有意義な

会議ができたなと思っています。

今日の提案書は、行政のところはどこも分量が結構多くて、私は結構プレッシャーを感じているのですが、これは貴重な提案なので、ここは村の内部できちんと整理させていただきます。

村民の部分と地域の部分は、行政が押しつけるわけにはいかないので、ここについてどうするか、進め方についてはまた考えていきたいなと思っています。この提案を無駄にすることはないように活かしていきたいなと思っています。

私も、これを始めて、どういう結果が出るか全然わからないというところで、議会からも、5回終わって、その後はどうするのだと聞かれたけれども、提案書を見てから考えますということで何も決まっていません。ただ、今日、本当にいい提案をいただいたので、そこを踏まえて、しっかりやっつけよう。

最後の6にあった、こういうスタイルの議論の場は、私は対話の場だと思っていますが、ディベートではなくて、お互い話し合う、意見を言い合える、相手の意見を否定しないということで対話が成り立つ。感情的にならないで、対話が成り立つ。こういう場が必要で、原発以外の色々なテーマがあると思うのです。

皆さん、生活していて、何も問題がなければ、役場をお願いすることはないので、役場の情報はそれほど必要ないのですが、福祉面や環境面で何か問題が起きると、役場はどうしてくれるのかなということで、そこで初めて気づくのが普通だと思うのです。ですから、関心を持ってもらうというのはなかなか難しいことですが、今回は、無作為で皆さんのところに郵送させてもらって、これが皆さんの背中を押して、こういう場が設けられたということで、村としては、何らかのあれできっかけをつくることが大事だと思っていますので、情報発信の仕方も含めて、そこはさらに検討していきたいなと思っています。

御提案をしっかり受け止めて、皆さん方の議論が無駄にならないように、そこは村長としてしっかりやっていきますので、安心してください。

本当にどうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

事務連絡

○司会 続きまして、次第の4、事務連絡としまして、当課の菊地より、参加者及び会場の皆様に御案内させていただきます。

○菊地主事 それでは、私、防災原子力安全課の菊地から、参加者の皆様に2点御案内させていただきます。

まず、提案書につきましては、会議の中で御案内がありましたとおり、本日、皆様から出た御意見や御記入いただいた「意見提出シート」をもとに、構想日本で改めて整理させていただきます。

この整理が終わり次第、皆様に郵送しますので、内容を御確認いただきまして、御意見等を反映させつつ、取りまとめの作業を行いたいと考えております。

なお、完成後の提案書につきましては、改めて参加者の皆様にお送りしつつ、村長宛て提出する機会を設けてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、傍聴者の皆様に2点御案内させていただきます。

まず、お配りしました資料にセットしてあります「傍聴者アンケート」につきましては、お帰りまでに記入の上、御提出いただきますよう、御協力をお願いいたします。

続いて、2点目ですが、会議の冒頭でも申し上げましたとおり、本日の会議の内容・様子等に関しましては、WEB配信等なさないよう、秩序ある行動に御配慮くださいますようお願いいたします。

以上で事務連絡を終わります。

○司会 最後に、司会のほうからも一言申し添えさせていただきます。

参加者の皆様におかれましては、先ほどの事務連絡のとおり、今後、提案書の取りまとめ作業が残されておりますが、昨年12月の第1回会議から1年間にわたりまして、会議や施設見学への御参加、そして円滑な会議運営に御協力いただきまして、改めて感謝申し上げます。

なお、閉会後でございますが、参加者の皆様を対象に、筑波大学大学院の社会人学生よりアンケートを実施したいとのことで協力依頼が来ておりますので、その趣旨等を簡単に御紹介させていただきたいと思っております。

お時間の都合のつく方につきましては、閉会后、資料等をお配りしますので、そのままお残りいただければと思います。よろしくお願いいたします。

閉 会

○司会 それでは、以上で、東海村“自分ごと化”会議を閉会させていただきます。

ありがとうございました。